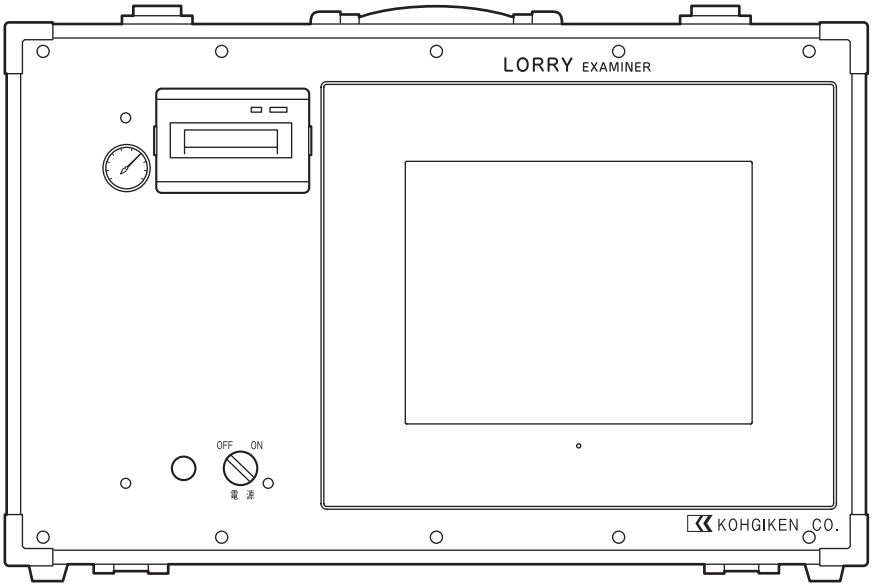
KOHGIKEN CORPORATION

取 扱 説 明 書

移動貯蔵タンク漏洩検知システム
ローリーエギザミナー2
（LEZ-8型　キャリータイプ）



ご使用の前に必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、ご理解の上、正しく取り付けご使用くださいますようお願いいたします。

この取扱説明書は再生紙を使用しています。
この取扱説明書のNo.はGM0032-07です。

はじめに

このたびは、移動貯蔵タンク漏洩検知システム「ローリーエギザミナー 2」をご採用いただきまことに有り難うございます。
ローリーエギザミナー 2 は、平成 12 年 3 月 31 日付消防危第 39 号通達「移動貯蔵タンクの水圧試験に関わる定期点検の指導方針について」および同別添「実施要領」に基づいた、移動貯蔵タンクの漏洩検査を行うことができる装置です。

本書は、「ローリーエギザミナー 2」の多彩な機能をフルに使いこなしていただくための操作方法について記載しております。常にお手元におきご活用頂きますようお願いいたします。

お願い

- **本書の内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されております。**
- **本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。**
- **本書の内容については万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載もれなどでお気づきの点がございましたら、当社までご連絡ください。**
- **本装置及びこの説明書によって運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。**
- **本装置を使用して、登録したデータなどを他の目的で使用することは、禁止されております。**

目次1

特　長 3
安全上のご注意 4
機器構成と仕様 9
各部の名称とはたらき 13
　本体前面 13
　USB 接続部（右側面）..... 14
　センサ接続部（左側面）..... 15
　加圧コントローラ前面 16
　加圧コントローラ後面 17
試験方法 18
　移動貯蔵タンク加圧試験 18
試験前の準備 20
　機材の確認と点検 20
　安全対策 21
　接続例 22
　設置作業 23
　センサの接続と取り付け 25
計測操作 29
　操作のフロー 29
　計測操作の前に 30
　共通事項 30
　電源の投入 31
　作業の選択 32
　タンクローリー条件の入力 32
　　測定する槽数を設定する 33
　　検査の種類を選択する 33
　　外気温度を設定する 33
　　危険物施設 1 を設定する 34
　　危険物施設 2 を設定する 34
　　タンクローリー仕様を設定する 35
　　チャンネル番号を設定する 36
　　ナンバープレートを設定する 36
　　検査済証番号を設定する 37
　　検査済証発行年月日を設定する 37
　　タンク行政機関名を設定する 38
　　点検証発行番号を設定する 38
　　責任者を設定する 39
　　実施者を設定する 39
　　立会者を設定する 40
　　天候を設定する 40
　計測を開始する 41
　　計測画面を表示する 41
　　大気圧を補正する 41
　　予備試験をする 41
　　本試験を開始する 42
　　本試験を開始する 42

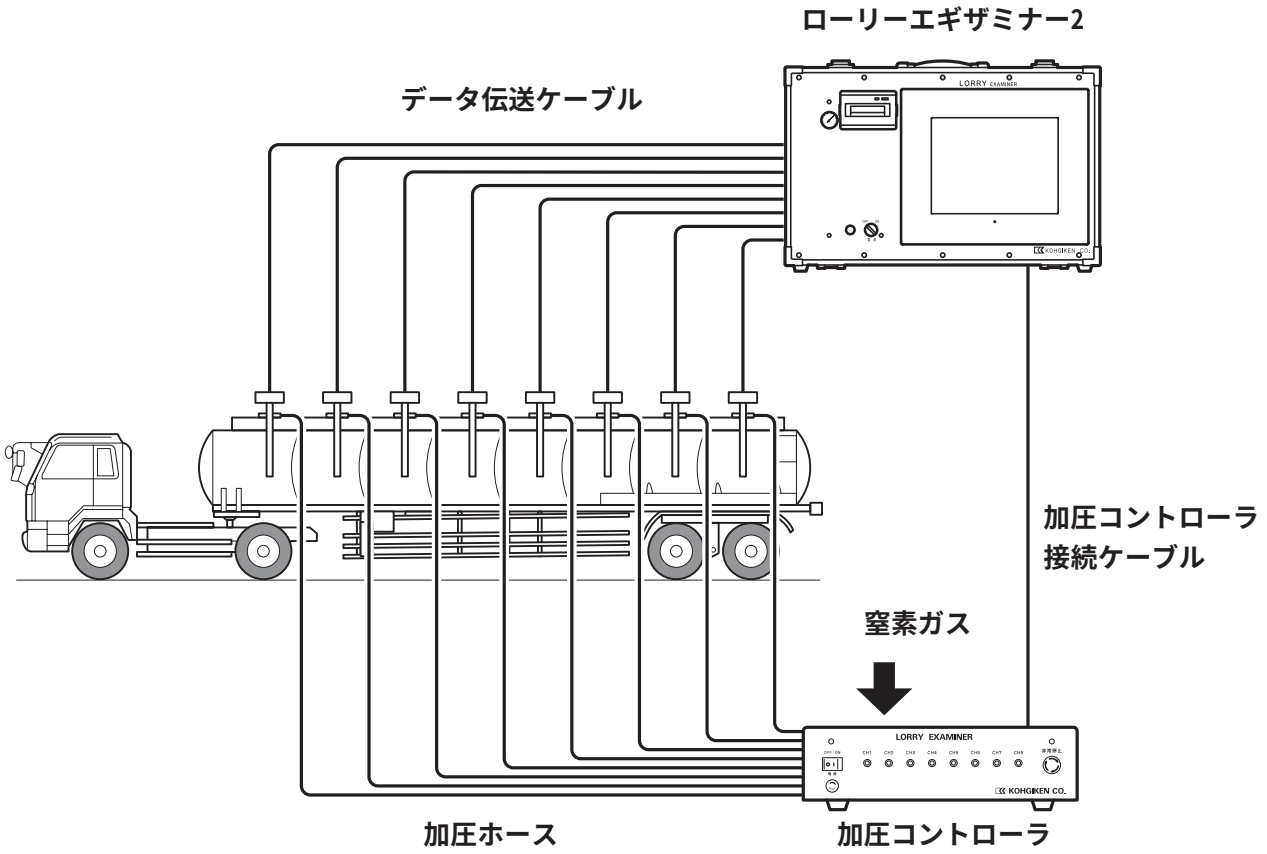
目次2

判定について 44
計測終了時の処置 45
ガス抜き作業 45
センサアッセンブリの取り外し 45
加圧コントローラー 45
窒素ガスボンベ配管とレギュレータの取り外し 45
ローリーエギザミナー２ 46
センサアッセンブリ組立品の取り外し 46
密閉部の解放 46
安全対策の撤去 46
データ整理 47
機器の接続 47
編集作業の流れについて 48
編集作業の流れと全危協書式 48
処理選択 50
各種設定・編集画面を表示する 50
データを編集する 53
危険物施設１の編集 53
危険物施設２の編集 54
液種の編集 54
タンク検査済証番号の編集 55
検査済証発行年月日の編集 55
タンク検査行政機関名の編集 56
点検済証番号の編集 56
点検実施者名の編集 57
天候の編集 59
コメントの編集 59
編集が終わったら 59
報告書を作成する 60
検査月を指定して表示する場合 61
計測データー覧を表示する 72
検査月を指定して表示する 72
ファイルを複写する 73
ファイルを削除する 74
各種設定 75
各種設定・編集画面を表示する 75
点検実施業者名設定 77
顧客名の設定 78
作業者名の設定 79
検査行政機関名の設定 80
液種名の設定 81
設定が終わったら 82
内蔵ミニプリンタの用紙交換 83
お手入れについて 84
アフターサービスについて 85

特　長

ローリーエギザミナー 2 は、平成 12 年 3 月 31 日付消防危第 39 号通達「移動貯蔵タンクの水圧試験に関わる定期点検の指導方針について」および同別添「実施要領」に基づいた、移動貯蔵タンクの漏洩検査を行うことができる装置です。

計測可能なチャンネルは標準で8系列装備しており、それぞれのチャンネルをタンクに自由に割り付けることが可能です。このことにより、１チャンネルのみの計測から最大8チャンネルの計測まで個々の現場に合わせて最大の効率で検査が可能になっています。



安全上のご注意

必ずお守りください

●この「取扱説明書」では、[⚠警告] [⚠注意] を次のような定義により使用しています。

●「取扱説明書」に記載されていない動作、組合せを行い、運用した結果についても責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

＊警告表示により指示された内容は、人身事故や物的損害を防止するためにの重要な事項です。必ず熟読し、理解した上で使用してください。

⚠ 警告	取り扱いを誤った場合に、人が死亡または重傷を負う危険が想定される場合
⚠ 注意	取り扱いを誤った場合に、負傷を負う危険が想定される場合または物的損害の発生する可能性がある場合

●絵表示
お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は、絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

使用方法について

■機器がぬれたり、水が入らないようにする！

禁　止

火災・感電をおこすおそれがあります。雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。

■水や雨水のかからない場所で使用する！

禁　止

火災・感電や機械の故障の原因となります。

■水場で使用しない！

水場使用禁止

火災・感電の原因となります。

■機器の上に水の入った容器、小さな金属物を置かない！

禁　止

こぼれて、機器内部に入ると、故障や事故をおこすおそれがあります。

■機器の開口部から異物を差し込んだり、落とし込んだりしない！

禁　止

火災・感電の原因となります。

■電源コード及び機器の接続コードを
- 加工しない！
- 傷つけない！
- 無理に曲げない！
- ねじらない！
- 引っ張らない！
- 加熱しない！

禁　止

火災・感電の原因となります。

■表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外は使用しない！

禁　止

火災・感電のおそれがあります。

■機器を改造しない！

分解禁止

火災・感電の原因となります。

■機器の指定されたフタ・カバー以外ををはずさない！

分解禁止

感電の原因となります。
- 点検・整備・修理は弊社にご依頼ください。

⚠ 警告

使用方法について

■窒素ボンベの圧力計がゼロ表示以外の値を表示しているときは、レギュレータの取り外し作業を行わない！

禁　止

レギュレータが吹き飛び機器の破損やけがの恐れがあります。

■加圧を行った部分のガス抜き時には、所定のバルブを急激に開放しない！

禁　止

急激に開放すると、施設の破損を起こす恐れや大量の窒素ガスによる酸欠状態を引き起こす恐れがあります。ガス抜き時は、所定のバルブを徐々に開放して大気圧に戻してください。

⚠ 警告

異常時の処理について

■機器を落としたり、破損した場合は電源スイッチを切り、電源プラグを抜くこと！

そのまま使用すると、火災・感電をおこすおそれがあります。

■機器の内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜くこと！

そのまま使用すると、火災・感電をおこすおそれがあります。

■機器の内部に異物が入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜くこと！

そのまま使用すると、感電・事故をおこすおそれがあります。

■煙が出ている、変なにおいや音がする等の異常状態の場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜くこと！

火災・感電の原因となります。
・弊社に修理をご依頼ください。

■電源コード及び、機器の接続コードが傷んだ場合は、交換を依頼すること！

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
・弊社にご相談ください。

■機器の使用中に、電源ブレーカー又は、漏電ブレーカーが作動した場合は、電源スイッチ、電源プラグを抜くこと！

そのまま使用すると、感電・火災事故をおこすおそれがあります。
・弊社にご相談ください。

■圧力加圧中に、圧力が異常に上昇した場合は、加圧コントローラの「非常停止ボタン」を押し、作業を中止すること！

そのまま作業を行うと機器破損のおそれがあります。

⚠ 注意

設置について

■ぬれた手でプラグを抜き差ししない！

禁　止

感電の原因となることがあります。

■プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らない！

禁　止

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

■機器の通風孔をふさがない！

禁　止

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■コードやコネクタの接続は、機器の電源がオンの状態で行わない！

禁　止

機器破損の恐れがあります。必ず機器の電源をオフにしてから接続してください。

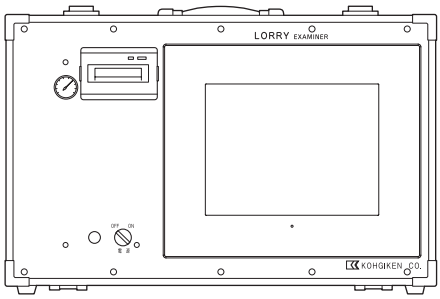
■極端な高温下や低温下、または高湿度の場所での機器の保管はしない！

注　意

機器故障の恐れがあります。

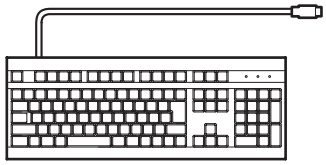
機器構成と仕様

① ローリーエギザミナー 2 本体

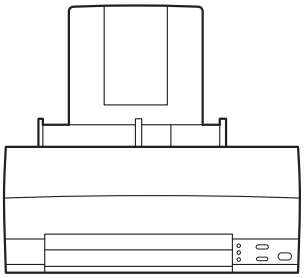


①-1 USB メモリー

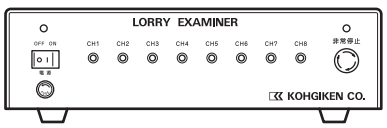
② キーボード



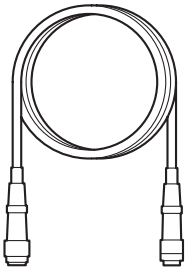
③ 外部プリンタ



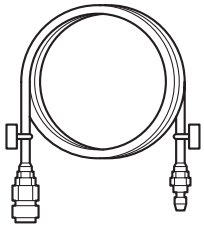
④ 加圧コントローラ



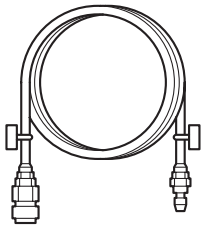
⑤ 加圧コントローラ接続ケーブル



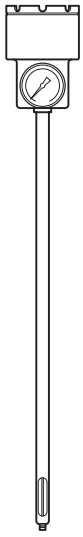
⑥ 加圧ホース



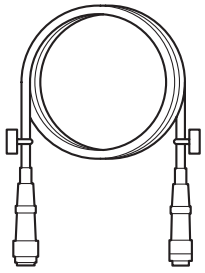
⑥-1 窒素供給ホース



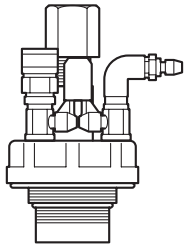
⑦ センサアッセンブリ



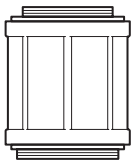
⑧ データ伝送ケーブル



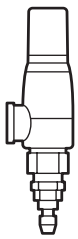
⑨ ホルダアッセンブリ



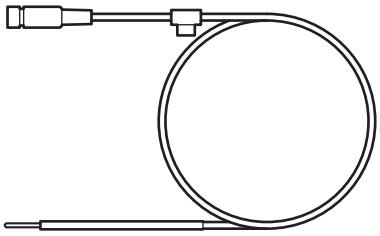
⑩　ホルダアダプタ



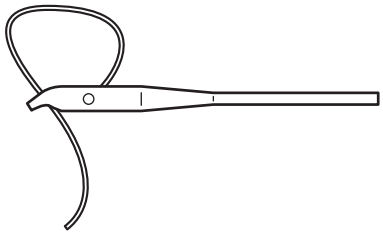
⑪　安全弁



⑫　下部温度センサ



⑬　ホルダレンチ



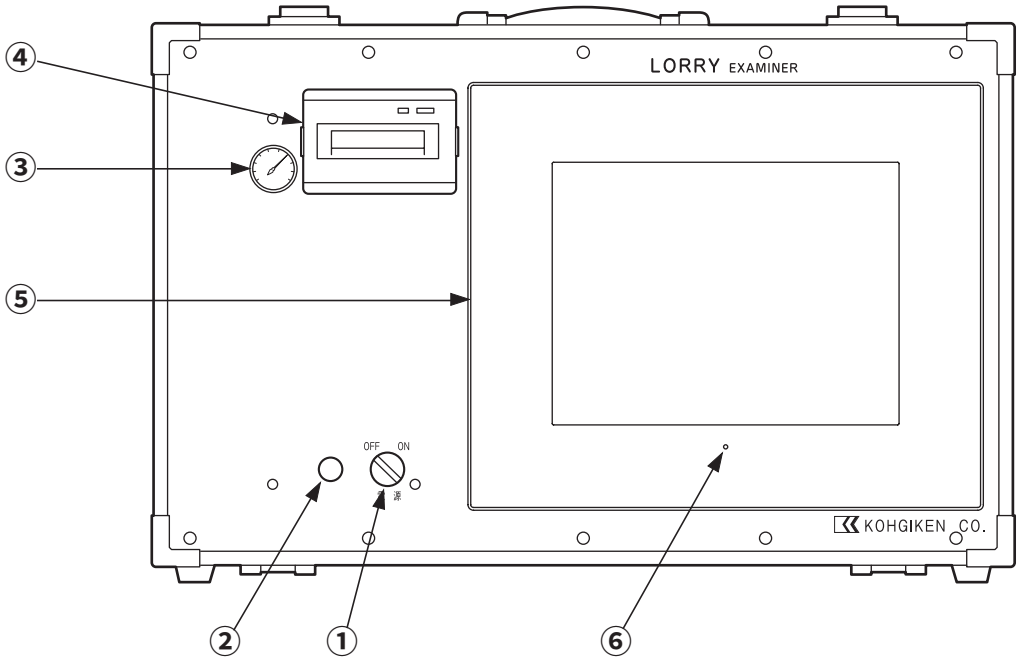
■ 仕様

機械番号	機器名	仕　　様	数量
1	ローリーエギザミナー2 LEZ-8	1） 外形寸法 602W×359H×290D（アルミトランクケース収納） 2）電源電圧 AC100V 50/60Hz 3） 測定槽 最大8槽 4）測定項目 大気圧補正、予備試験、加圧試験（個別、２車同時加圧）、判定 5）表示 ・数値：圧力（最小0.01kPa）、上部、下部温度（最小0.0℃）、温度補正圧力降下量（最小0.01kPa） ・経過図：圧力 ・その他：漏洩の有無、試験車輌条件、試験経過時など 6） 小型内蔵プリンタ 試験日、試験車輌条件、予備試験、圧力、上部下部温度、平均温度、温度補正圧力降下量、判定	1台
1-1	USBメモリー		1個
2	キーボード	日本語106	1台
3	プリンタ	1） A 4 カラーインクジェット式（報告書出力時は白黒） 2） 出力項目；一般財団法人全国危険物安全協会の書式に基づく	1台
4	加圧コントローラ	1） 外形寸法：380W×110H×250D 2） 電源電圧：AC100V 50/60Hz 3） 動作方法：電磁弁によるON/OFF制御（多段階同時加圧制御） 4） 電源、加圧ランプ、非常停止スイッチ付き	1台
5	加圧コントローラ接続ケーブル	1） 長さ：15m 2） 接続方式：コネクタ	1本
6	加圧ホース	1） 使用最大圧力：1MPa 2） 長さ：15m 3） 接続方式：カプラ	8本
6-1	窒素供給ホース	1） 使用最大圧力：1MPa 2） 長さ：15m 3） 接続方式：カプラ	1本

機械番号	機器名	仕　　様	数量
7	センサアッセンブリ	1）圧力 ・センサ方式：厚膜半導体トランスジューサ（絶対圧） ・測定範囲：-10kPa～30kPa ・分解能：0.01kPa（確度±0.2%・ヒステリシス、リニアリテー含む） 2）上部温度 ・センサ・白金抵抗pt100Ω ・測定範囲：-10～+50℃ ・分解能：0.01℃（確度±0.2%・ヒステリシス、リニアリテー含む） 3）圧力計 ・測定方式：ブルドン管式 ・測定範囲：0～60kPa 4）その他 ・上部温度位置調整付き ・データ伝送ケーブル、下部温度センサ結合：コネクタ	8本
8	データ伝送ケーブル	・長さ：15m ・接続方式：コネクタ	8本
9	ホルダアッセンブリ	・取付けサイズ：50A-65A共用型 ・窒素ガス、安全弁取付口付き：カプラ ・加圧開閉バルブ付き	8ヶ
10	ホルダアダプター	・65Aミリネジアダプター	8ヶ
11	安全弁	・作動方式：スプリングバランス式 ・作動圧力：24kPa ・有効口径：15A	8ヶ
12	下部温度センサ	・センサ：白金抵抗pt100Ω ・測定範囲：－10～＋50℃ ・分解能：0.01℃確度±0.2%・ヒステリシス、リニアリテー含む） ・測定位置調整機能付き ・結合：コネクタ	8本
13	ホルダレンチ	・センサアッセンブリ開閉用	1本

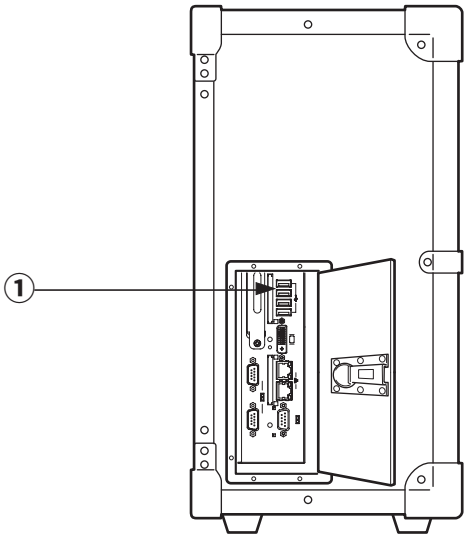
各部の名称とはたらき

■ 本体前面



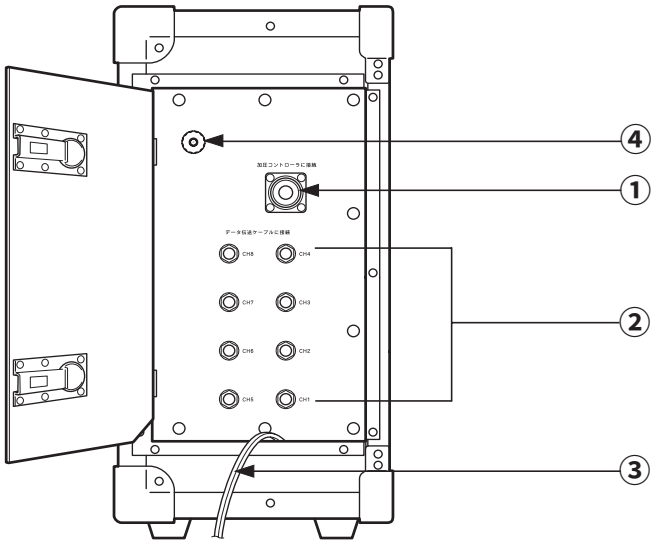
①	電源スイッチ	電源のＯＮ／ＯＦＦをします。右に回すとオンになります。
②	ヒューズホルダー	電源用のヒューズが入っています。（定格２ Ａ）
③	温度計	外気温を測定します。
④	内蔵プリンタ	計測したデータなどを印刷します。
⑤	LCD 画面／タッチキー	各種画面が表示されます。また、タッチパネル形式になっています。
⑥	電源ランプ	電源がＯＮ の時ランプが点灯します。 ＯＦＦ になるとランプが消えます。

■ USB 接続部（右側面）



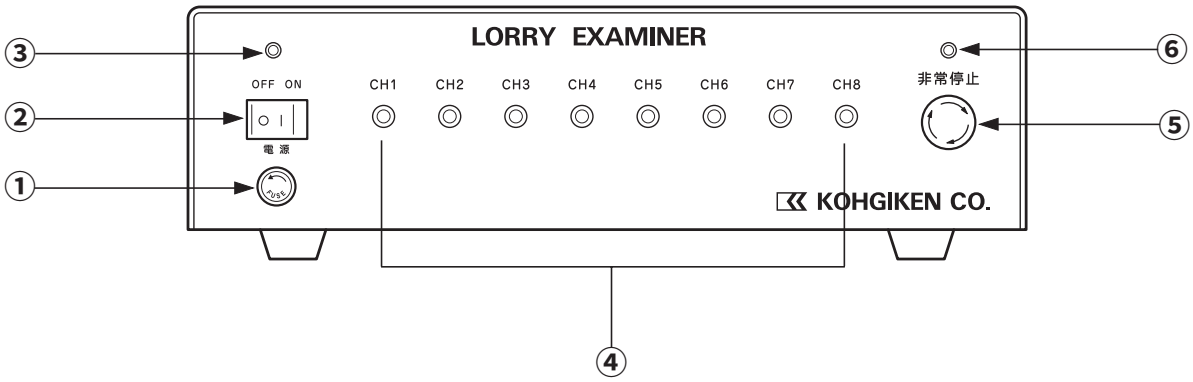
① USB コネクタ　　付属の外部プリンタやキーボード、USB メモリを接続するコネクタです。

■ センサ接続部（左側面）



①	加圧コントローラ接続コネクタ	加圧コントローラとケーブルで接続します。
②	データ伝送ケーブル接続コネクタ CH1 ～ CH8	センサアッセンブリとデータ伝送ケーブルと接続します。
③	電源コード	AC100V の電源と接続します。
④	アース接続端子	アースを接続します。

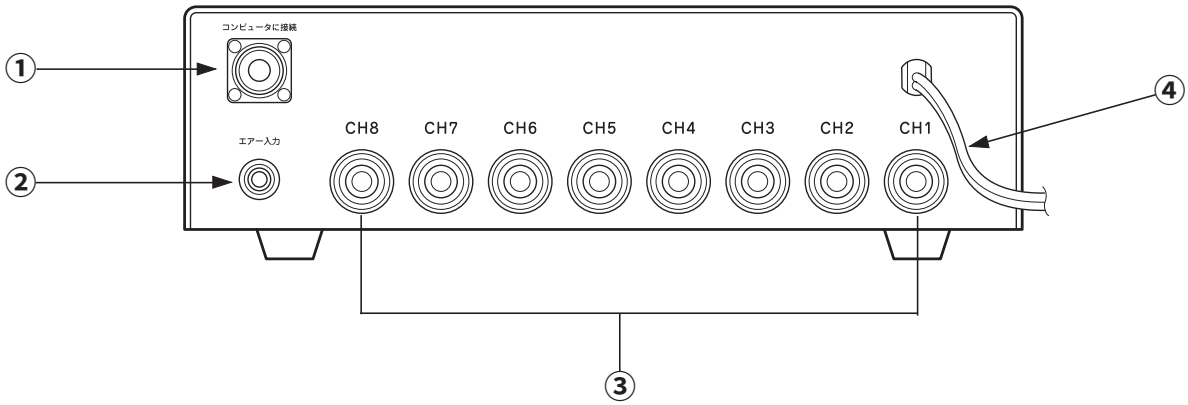
■ 加圧コントローラ前面



①	ヒューズホルダー	電源用のヒューズが入っています。（定格２ Ａ）
②	電源スイッチ	電源のＯＮ／ＯＦＦをします。
③	電源ランプ	電源がオンになっているときに点灯します。
④	加圧表示ランプ CH1～CH8	加圧中に、該当するチャンネルのランプが点灯します。
⑤	非常停止ボタン	何らかの事態で窒素ガスの供給を停止したいときに押すと、全チャンネルの窒素ガス供給を停止しランプが点灯します。 再開するときは、ボタンを矢印の方向に回すと解除されます。

⑥	非常停止ランプ	非常停止ボタンを押すとランプが点灯します。 解除するとランプは消えます。

■ 加圧コントローラ後面



①	コンピュータ接続コネクタ	ローリーエギザミナー 2 と加圧コントローラ接続ケーブルで接続します。
②	窒素ガス供給口	窒素ガスボンベのレギュレータからの加圧ホースを接続します。
③	加圧用口 CH1 ～ CH8	窒素ガスを出力するコネクタです。センサアッセンブリと加圧用ホースを介して接続します。
④	電源コード	AC100V の電源と接続します。

試験方法

■ 移動貯蔵タンク加圧試験

ガス加圧法は、密閉した移動貯蔵タンク（タンクローリー車）本体に窒素ガスを封入し、所定の圧力にて加圧を維持し､一定時間内の圧力変動を計測することにより漏洩の有無を確認する気密試験です。加圧媒体は、窒素ガスを使用し試験時の圧力は通常 20kPa とします。

●特長

- ･単槽小型タンクローリー車の個別加圧試験から 8 槽までの大型タンクローリー車の多槽同時加圧試験をおこなうことができるように 8 つの計測チャンネルを標準装備しています。
- ･試験前にタンクローリー車の自動車登録番号、全容量、槽数、各槽の容量および液種を入力することができますので、試験後の管理が容易におこなえます。また入力したデータは報告書作成時に自動的にとりこめます。
- ･多槽同時加圧の際、圧力を自動コントロールし、適切な試験経過状況が数値およびグラフで表示されるとともに計測値に基づく漏洩の有無の判定を自動的におこないます。
- ･定められた様式に基づく報告書を作成することができるとともにデータの保存ができます。

●試験要領

次の手順で試験をします。

手　順	内　容
1．事前調査	● タンクの設置状態の確認 ･設置時の図面により現車の設置状況を確認します。 ● タンクの状況記録 ･全容量、槽数、槽容量、タンク検査済証を確認記録します。 ● パッキングの目視点検 ･各部パッキングの劣化の有無を目視により確認します。
2．準備	● タンク室内点検 ･タンク室内が完全に「空」であることを確認します。特にガソリンなど蒸気圧の高い物質を貯蔵していたタンク室にあっては、タンク室を「空」の状態にしてマンホールを開いた後十分な放置時間をとります。 ● タンクの安置 ･タンクを屋内または直射日光、風などにより測定時間中に温度変化の影響を受けない水平な場所に置き、動かないように固定します。 ● 熱源の除去 ･エンジンなどの熱源による影響を受けない状態にします。

手　順	内　容
	● 環境整備 ・消火器、安全柵、警戒ロープ、作業標識などの設置をおこない、火災予防上支障のない環境に整備します。 ● タンクの密封 ・底弁、緊急遮断弁、給油口などのバルブを完全に「閉」の状態にします。 ● 計測機器、加圧装置の取付 ・温度センサ、加圧ホース、窒素ガス、データ伝送ケーブル、センサアッセンブリなどを接続します。
3．試験器具の取り付けおよび大気補正	試験器具を接続し、ローリーエギザミナー2 を起動させ、試験条件を入力し、大気補正をおこないます。
4．予備試験	タンク室を密封し、加圧せずに圧力変化を計測し10 分間の温度補正降下量が±0.02kPa 以内にあるか確認します。
5．点検範囲の密封	点検範囲にある開口部を予め確認された方法（バルブ・止め板・閉鎖治具など）で密封します。
6．計　測	所定の値まで加圧されたことを確認し、タンクを一定時間計測します。
7．大気開放	計測が終了したら、少しずつ大気圧に戻します。
8．判　定	計測が終了したら、ローリーエギザミーナー2 の判定および試験状況を考慮し責任者が総合的に判定します。 (「判定について」44 ページを参照してください)
9．試験器具の撤去	試験器具を検査対象より取り外します。
10.密封箇所の復帰	密封器具を取り外し、試験前の状態に戻します。
11.安全対策の撤去	バリケード・警戒ロープなどを撤去します。

試験前の準備

■ 機材の確認と点検

試験前に機材がそろっているか、機材が破損していないか下記を参考にして確認してください。

試験現場によっては、必要な機材や材料が異なりますので数量の確認を十分に行なってください。

機器名	確認事項	備　　考
ローリーエギザミナー 2	・破損はないか ・内蔵プリンタの用紙は、十分にあるか 交換用の用紙があるか	
加圧コントローラ	・破損はないか	
加圧コントローラ 接続ケーブル	・破損はないか	
加圧ホース	・破損はないか・数量はそろっているか	
データ伝送ケーブル	・破損はないか・数量はそろっているか	
センサアッセンブリ	・破損はないか・数量はそろっているか	
ホルダアッセンブリ	・破損はないか・数量はそろっているか	
ホルダアダプタ	・破損はないか・数量はそろっているか	
安全弁	・破損はないか・数量はそろっているか	
下部温度センサ	・破損はないか・数量はそろっているか	
ホルダレンチ	・破損はないか	
窒素ガスボンベ	・窒素ガスが十分に入っているか	
工具類	・試験機器の設置に必要な工具はそろっているか	
その他	・消火器・警戒ローブ・バリケード・電源用延長コードリール・提示板など ・点検済み証 ・酸素濃度計・安全帯・送風機など	

■ 安全対策

検査を始める前に、現場の安全を確保するため次の準備を行なってください。

● 検査区域の安全対策

・安全柵、警戒ロープ、作業標識などを設置して、検査現場を囲い関係者以外の立ち入りや車両の進入を防止してください。

・出火事故を防ぐため要所に火気厳禁の看板を提示してください。

・万一の事故に対処するため、作業中容易に操作可能な場所に消火器を設置してください。

● 電源対策

・現場施設のコンセントなどから電源をコードリールなどを利用して検査機器に供給可能な状態にします。

> 検査中に電源が遮断されると検査が無効になりますので、コンセントやコードリールなどから電源プラグが抜ける事故を防止するよう処置してください。

● 窒素ガスの設定

・窒素ガスの二次側圧力は 0.2MPa ～ 0.3MPa に設定してください。

● 窒素ガスボンベの取扱い

> P28，P45 を参照し安全に注意して取り扱うようにしてください。

● 機器設置場所の設定

・各機器は、検査を実施している間、直射日光が当たらず、万一雨が降っても雨水がかからない水平な場所に設置してください。

> 直射日光が当たったり、雨水がかかると機器の故障の原因になります。また、LCD 画面に直射日光が当たると、画面が見にくくなります。

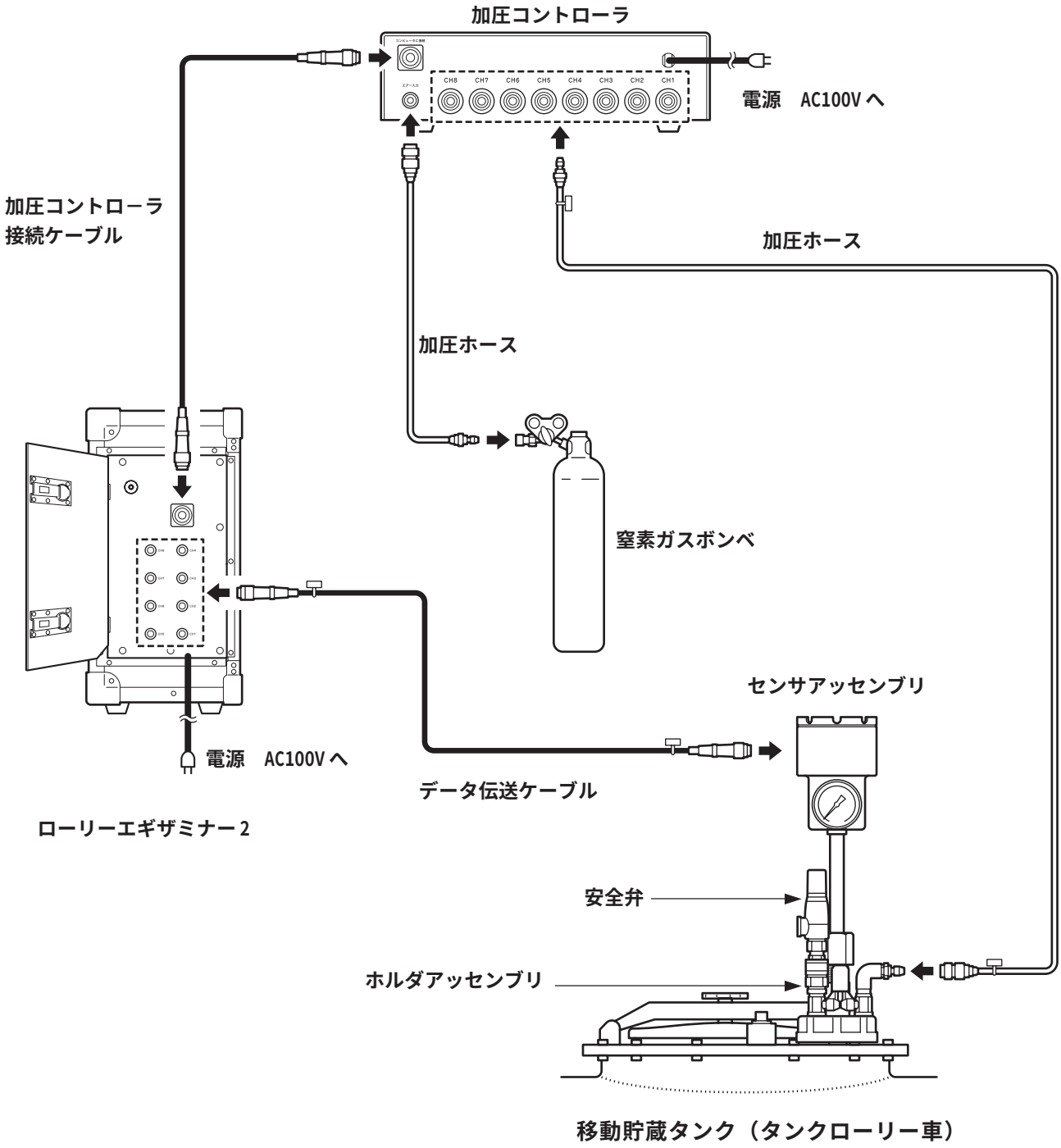
● ホース、ケーブルの接続

・ホースのカプラ、ケーブルのコネクタはしっかり接続し、容易に抜けないことを確認してください。

● 安全弁の取扱い

・P25 を参照しキャップを必ず外して接続してください。

■接続例


加圧コントローラ
CH8 CH7 CH6 CH5 CH4 CH3 CH2 CH1
電源　AC100V へ
加圧コントローラ
接続ケーブル
加圧ホース
加圧ホース
窒素ガスボンベ
センサアッセンブリ
電源　AC100V へ
データ伝送ケーブル
ローリーエギザミナー 2
安全弁
ホルダアッセンブリ
移動貯蔵タンク（タンクローリー車）

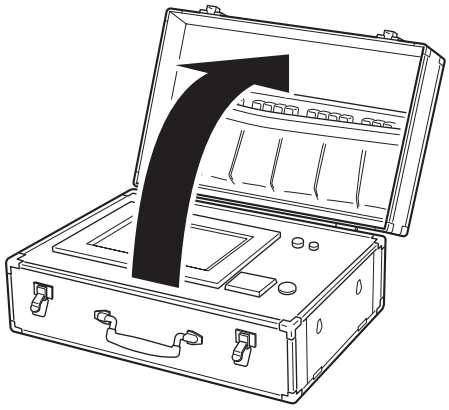
■設置作業

ローリーエギザミナー 2 ・加圧コントローラ・加圧ホース・データ伝送ケーブルなどを設置および接続します。

データ伝送ケーブル・圧力コントローラおよびセンサアッセンブリの各チャンネルは、全て同じチャンネル番号に接続してください。

※異なるチャンネルに接続すると正常に計測ができず、異常加圧の原因になりますので、チャンネル番号は必ず確認してください。

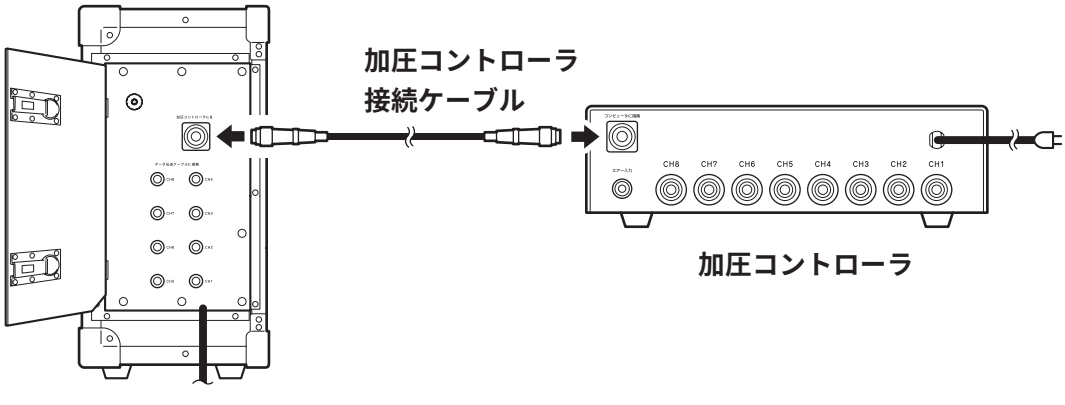
① ローリーエギザミナー 2 の前面フタを外し、水平な安定した場所に設置します。



② 加圧コントローラを水平な安定した場所に設置します。

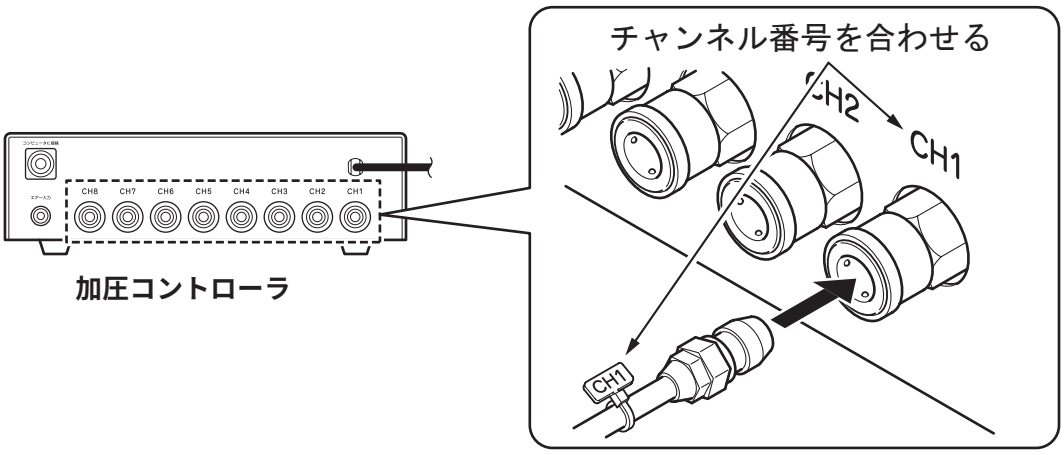
③ ローリーエギザミナー 2 左側のフタを開き、「加圧コントローラに接続」コネクタと加圧コントローラ後ろ側の「コンピュータに接続」コネクタを加圧コントローラ接続ケーブルで接続します。

※加圧コントローラを接続しなければ計測ができません。必ず接続してください。



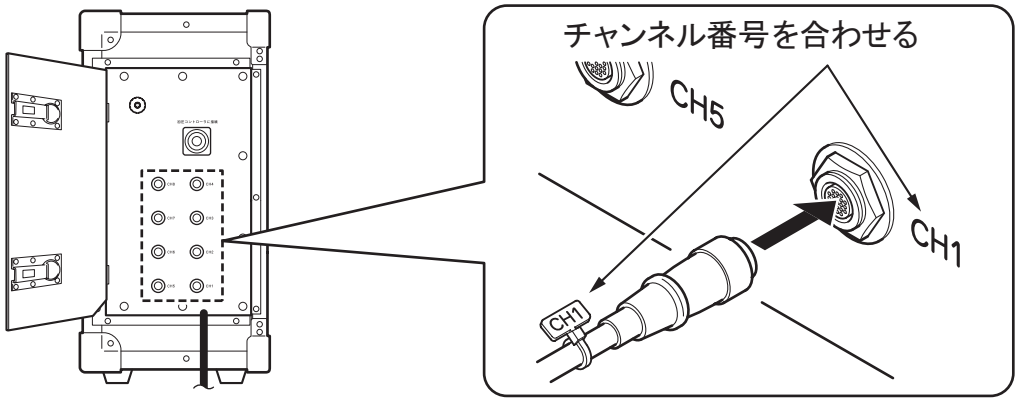
④ 加圧コントローラ後ろ側の「エアー入力」と窒素ガスボンベを加圧ホースでしっかり接続します。
※窒素ガスボンベの設置については「窒素ガスボンベの使用方法」P.28,P.45 を参照してください。

⑤ 加圧コントローラ後ろ側の「CH1 から CH8」に必要数の加圧ホースを接続します。
※加圧ホースには、チャンネルを示すラベルが付いています。ラベルのチャンネル表示と加圧コントローラのチャンネル表示を合わせてしっかり接続してください。



加圧コントローラ

⑥ ローリーエギザミナー2左側のフタを開き、データ伝送ケーブル接続端子にデータ伝送ケーブルを接続します。
※データ伝送ケーブルには、チャンネルを示すラベルが付いています。ラベルのチャンネル表示とデータ伝送ケーブル接続端子のチャンネル表示を合わせてしっかり接続してください。

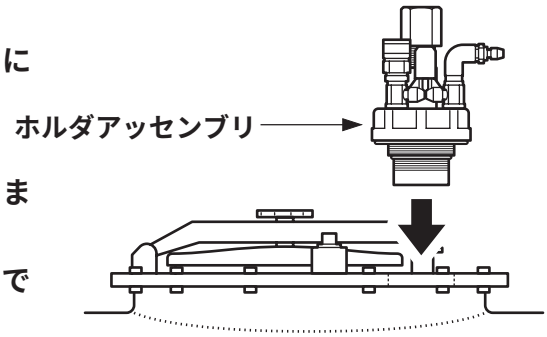


ローリーエギザミナー2

■センサの接続と取り付け

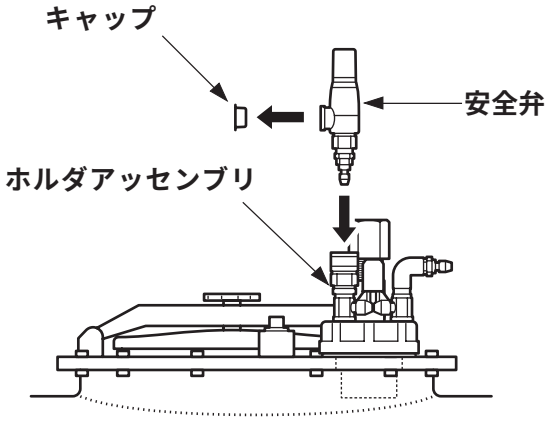
●ホルダアッセンブリの取り付け

① タンクのマンホールを開き、タンク室内が完全に「空」の状態であることを確認します。
② タンクローリー車の安全弁を外します。
③ 安全弁を付した口にホルダアッセンブリを取り付けます。
※ホルダアッセンブリは、付属の「ホルダレンチ」でしっかりと固定します。
フランジの穴径が合わない場合は、付属の「ホルダアダプタ」を使って取り付けます。



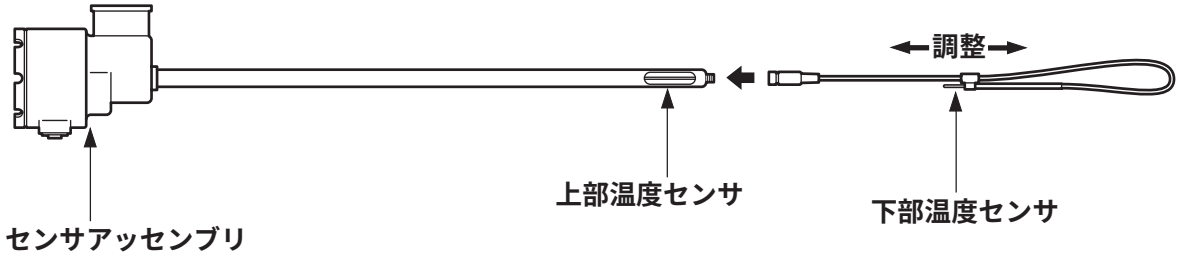
● 安全弁の取り付け

① ホルダアッセンブリに安全弁を接続します。
※安全弁のキャップは必ず外して接続してください。
24kPa で作動しないおそれがあります。



● センサアッセンブリと下部温度センサの接続

① センサアッセンブリに下部温度センサを取り付けます。
※上部温度センサがタンク上面から約150㎜の位置にした時、下部温度センサがタンク底から約150㎜になるようにします。「●温度センサの位置調節」を参照してください。



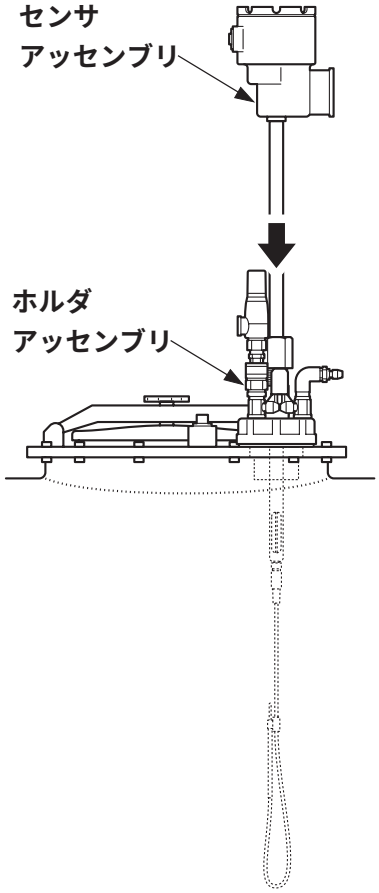
●センサアッセンブリの取り付け

① ホルダアッセンブリのセンサアッセンブリ取り付け用のナットをゆるめてください。

② センサアッセンブリをホルダアッセンブリに取り付けてください。

※センサアッセンブリを取り付ける際は、下部温度センサやセンサアッセンブリと下部温度センサの接続部分を傷つけないよう注意して取り付けてください。
上部温度センサがタンク上部から約150㎜になるようにしてください。

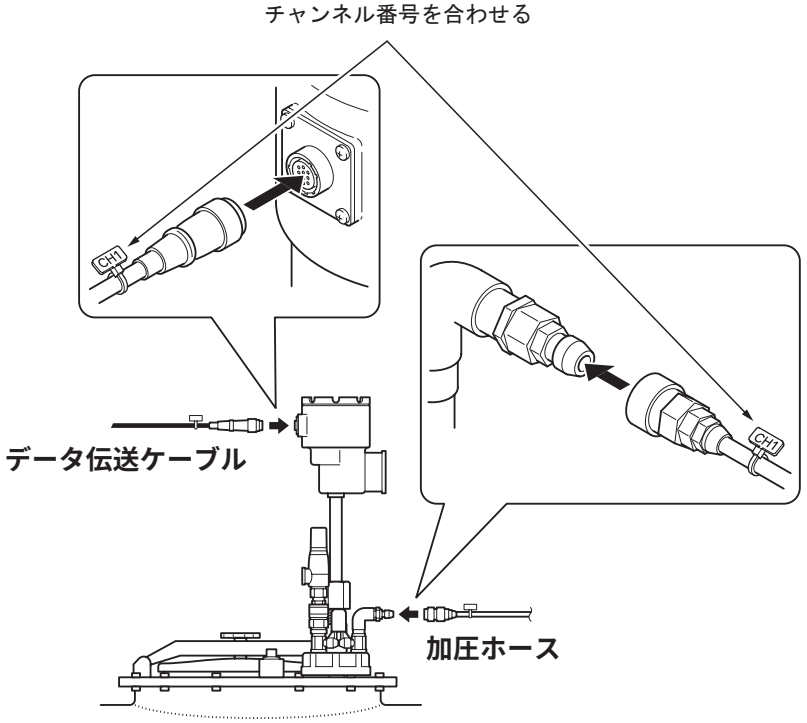
③ センサアッセンブリ取り付け用ナットをしっかりと締めてください。



●加圧ホースおよびデータ伝送ケーブルの接続

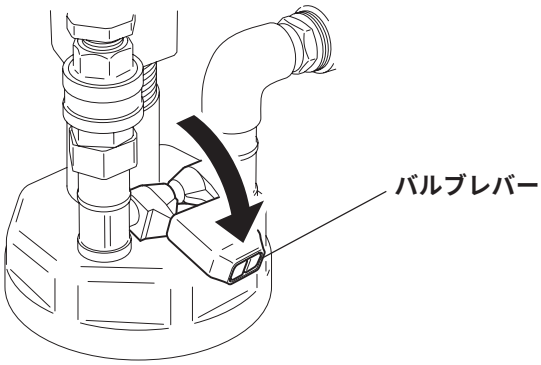
センサアッセンブリに加圧ホースおよびデータ伝送ケーブルをしっかり接続します。

① チャンネル番号に合わせて加圧ホースおよびデータ電送ケーブルをしっかり接続します。



● ホルダアッセンブリのバルブを閉じる

ホルダアッセンブリのバルブは、図のように閉じた状態にしておいてください。

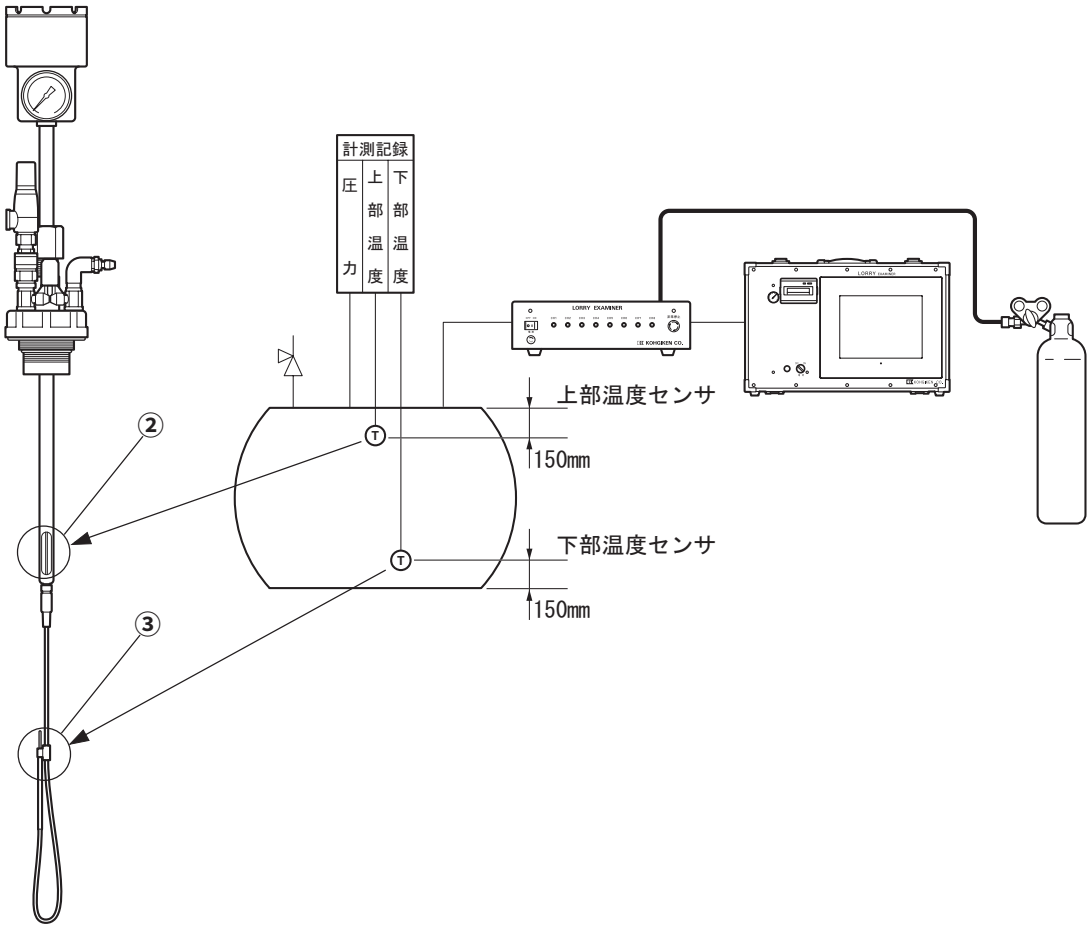


● 温度センサの位置調節

① タンクの底部に当たるまで､検査用のフランジ開口部からメジャーを入れ底部までの高さを測定します。

② タンク上部から約 150㎜ の位置に上部温度センサの取付位置を設定します。

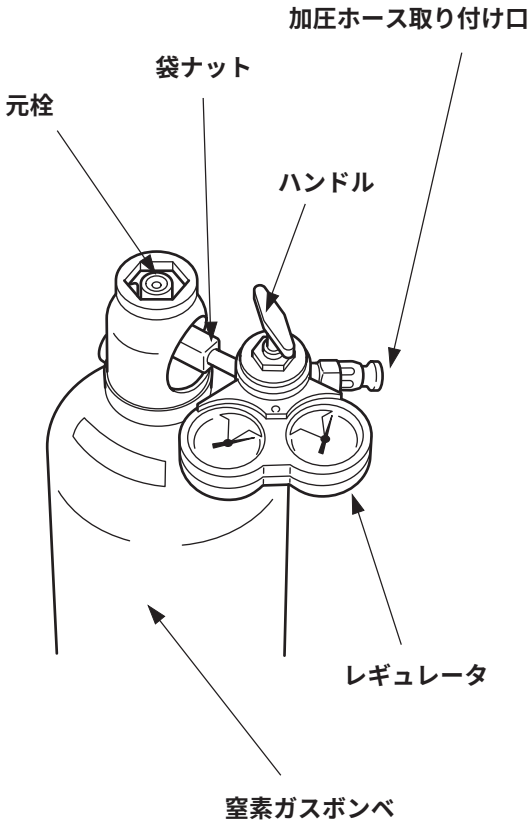
③ タンク下部から約 150㎜ の位置に下部温度センサの取付位置を設定します。



●窒素ガスボンベの使用方法

①レギュレータの取り付け

レギュレータのハンドルを左に回し、開放状態を確認後、モンキースパナなどで袋ナットを締め付けレギュレータを窒素ガスボンベにしっかり取り付けます。



②窒素ガスボンベの元栓の開放

窒素ガスボンベの元栓に窒素ボンベ用ハンドルを取り付け左に回します。

レギレータの一次側圧力が上昇し、指針がボンベ内の圧力を示します。この時2次側圧力は0.2MPa～0.3MPaに設定します。

③加圧ホースの接続

加圧ホース取り付け口に加圧ホースをしっかり接続します。

⚠警告

レギュレータが袋ナットで確実に窒素ガスボンベに取り付けられていることを確認してから窒素ガスボンベの元栓を開放すること。

計測操作

■操作のフロー

電源オン	ローリーエキザミナー 2 の「電源」スイッチをオンにする
メインメニュー表示	
データの計測を選択	データの計測 ボタンを押す
測定するチャンネル数の設定	該当するチャンネル数を設定する
検査の種類を選択	多槽同時加圧 / 単槽個別加圧を選択する
外気温度の入力	外気温度を測定し、画面のテンキーから入力
危険物施設 1、2 の入力	表示された一覧から選択
タンクローリー仕様の設定	表示された一覧から選択
ナンバープレートの入力	画面のテンキーからタンクローリーのナンバープレートを入力
タンク検査済証番号の入力	画面のテンキーからタンクの検査済証の番号を入力
検査済証発行日の入力	画面のテンキーから検査済証発行年月日を入力
タンク行政機関名の入力	表示された一覧から選択
責任者・実施者・立ち会い者の入力	表示された一覧から選択
大気圧補正	測定するタンクを開放し、大気圧補正 ボタンを押す
予備試験	測定するタンクを密閉し、予備試験気 ボタンを押す
試験の開始	本試験 ボタンを押し、自動加圧開始 ボタンを押し自動加圧を開始します。 自動加圧が終了したらバルブを閉じる

■ 計測操作の前に

計測操作の前に本機にキーボードを接続して「危険物施設1」、「危険物施設2」、「液種名」、「点検実施者名」を設定しておくと作業中に設定する必要が無く、またキーボードも必要としませんので効率よく計測操作ができます。

設定は、「各種設定、編集」50 ページを参照してください。

■ 共通事項

本機の LCD 画面は、タッチキー方式になっていますので、必要な画面上のキーを軽く押すことで操作することができます。

操作できるキーと操作できないキーは、次のように表示されます。

操作できるキー　：　大気圧補正

操作できないキー　：　予備試験

操作説明は、チャンネル１から 8 の内チャンネル１を基準に説明しています。

ご注意

タッチキーは、故障の原因になりますので、水や油などのついた手・ボールペンなどの先・ドライバーなどの先のように尖ったもので操作しないでください。

●テンキーの操作

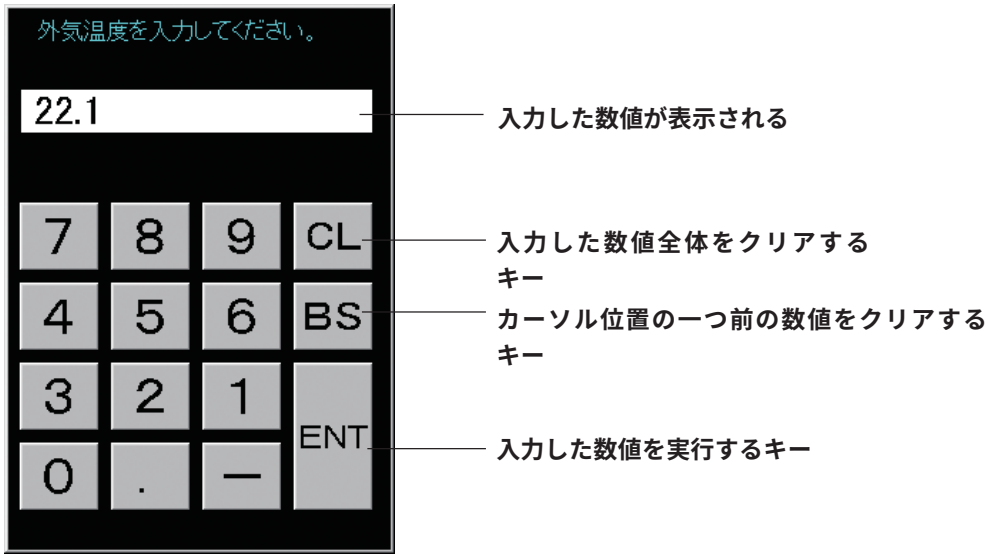
テンキーでは、「0」～「9」までの数字キーと「.」「−」キーおよび「CL」、「BS」、「ENT」キーなどがあります。

「0」～「9」までの数字キーと「.」「−」キーをタッチするとその内容が表示部に表示されます。

「CL」キーをタッチすると表示部に表示されている内容を全て消去します。

「BS」キーをタッチすると表示されている一番右側の文字を 1 つ消去します。

「ENT」キーをタッチすると表示されている内容を保存、または入力します。



■ 電源の投入

電源の投入は、「圧力コントローラ」・「ローリーエギザミナー２」の順に電源スイッチをオンにします。

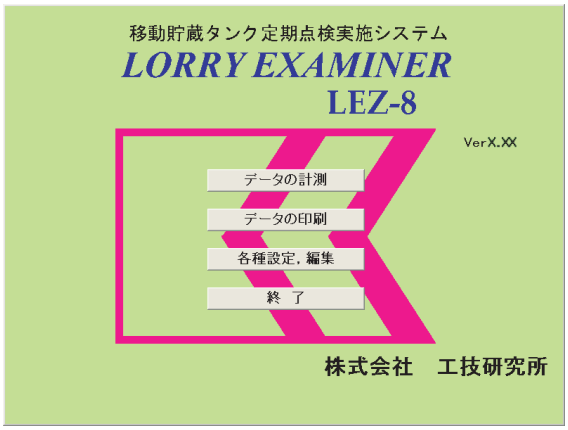
1 圧力コントローラの電源スイッチをオンにする

圧力コントローラ裏側の「電源スイッチ」をオン側
に倒します。
電源表示ランプが点灯します。

2 本体の電源スイッチをオンにする

本体前面の「電源スイッチ」をオン側に回します。
電源表示 LED が点灯し、「ロゴ」画面を表示
してから「メインメニュー画面」が表示されます。

ロゴ画面



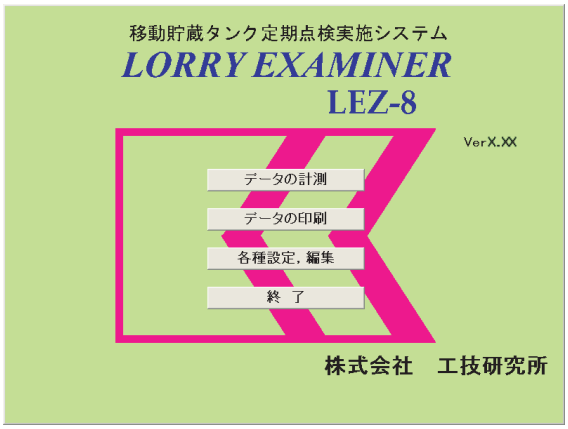
メインメニュー画面

■ 作業の選択

1 作業を選択する

「メインメニュー」画面で、作業を選択します。

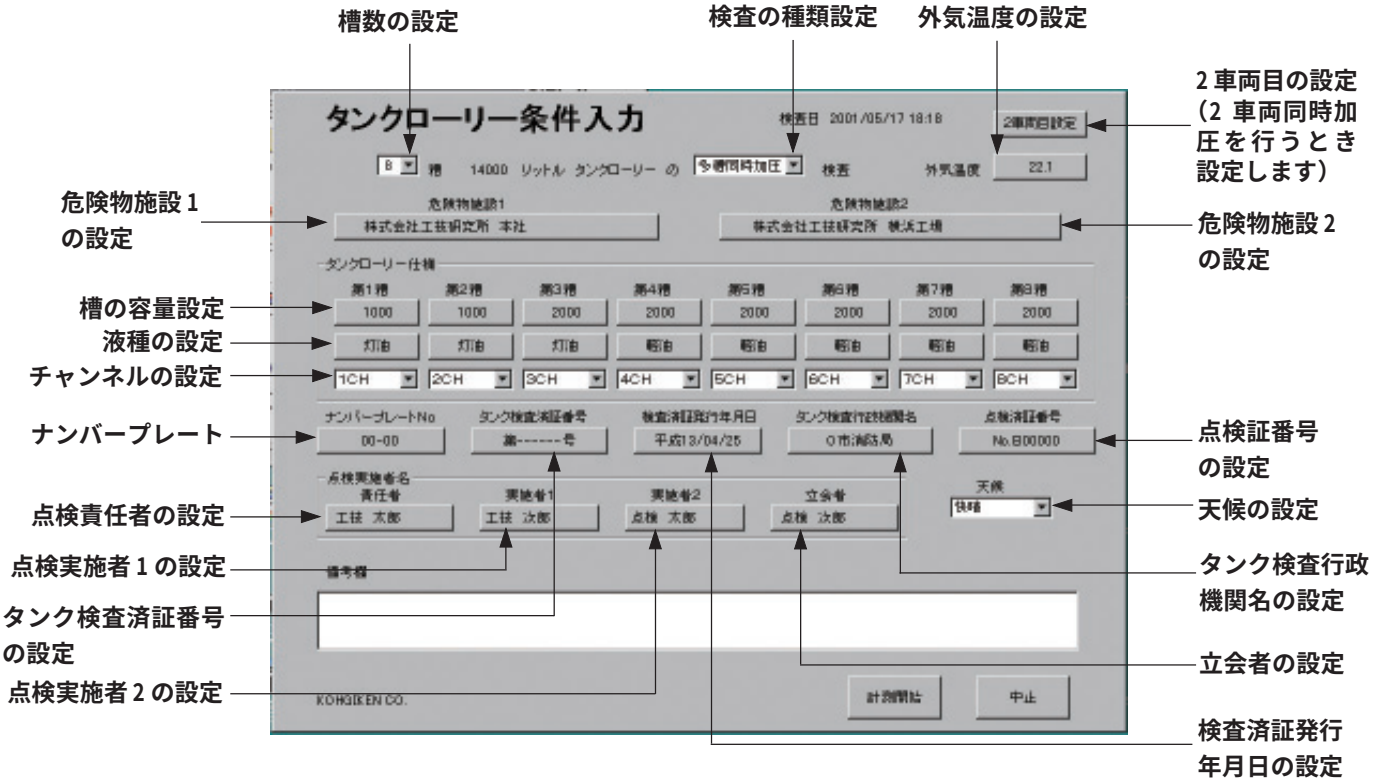
データの計測	：計測を行うときの「タンクローリー条件入力」画面が表示されます。
データの印刷	：報告書を作成するとき 60 ページに進みます。
各種設定・編集	：データの再編集、点検実施者名、液種品目などの追加、削除などの補助作業を行うとき 50 ページに進みます。
終　了	：作業を終了し、本体の電源をオフにするとき



メインメニュー画面

■ タンクローリー条件の入力

計測を行うタンクローリーの条件を設定します。



タンクローリー条件入力画面

● 測定する槽数を設定する

1 測定する槽数を設定する

槽の [▼] キーを押します。
「プルダウンメニュー」が表示されます。

表示例

2 槽数を選択する

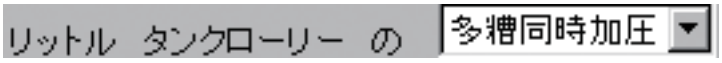
表示されたプルダウンメニューから測定する槽数を選択します。

● 検査の種類を選択する

1 検査の種類を表示する

検査の [▼] キーを押します。
「プルダウンメニュー」が表示されます。

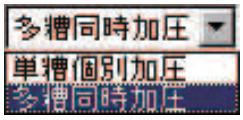
表示例



2 検査の種類を選択する

プルダウンメニューから検査の種類を選択します。

※ 単槽個別加圧：槽ごとに個別に加圧します。
多槽同時加圧：複数の槽を同時に加圧します。



● 外気温度を設定する

外気温度を設定します。

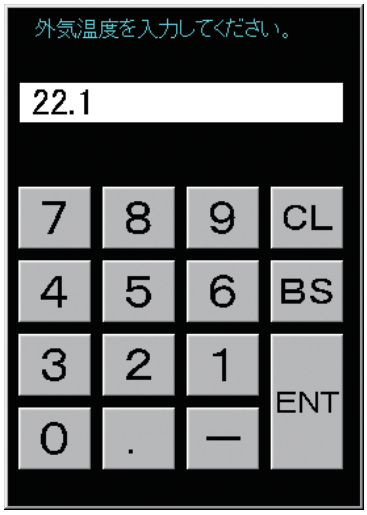
1 外気温度を測定する

寒暖計などで外気温度を測定します。

2 外気温度を入力する

外気温度の「 」を押して、表示された
テンキーで外気温度を入力します。

表示例



3 [ENT] ボタンを押す

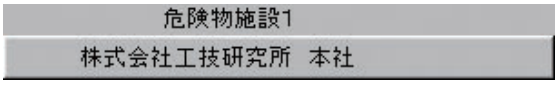
●危険物施設 1 を設定する

危険物施設 1 の顧客を設定します。

1 顧客名一覧画面を表示する

危険物施設 1 の「 [ ] 」を押します。
「顧客名一覧」画面が表示されます。

表示例

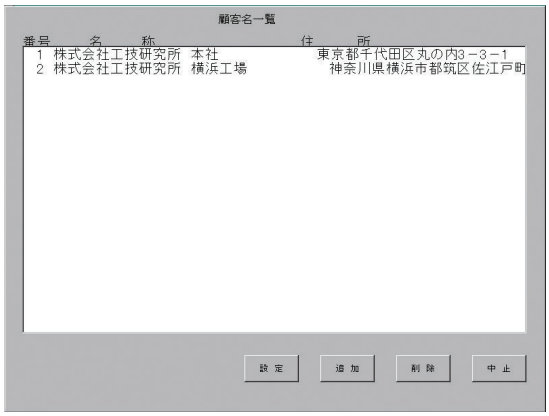


2 顧客名を設定する

顧客名一覧画面から危険物施設1の顧客名を選択します。

3 ［設定］ボタンを押す

※一覧に該当する顧客名がない場合、追加ボタンを押し、設定してください。



顧客名一覧画面

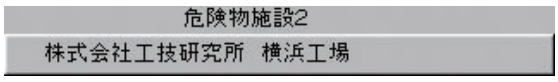
●危険物施設 2 を設定する

危険物施設 2 の顧客を設定します。

1 顧客名一覧画面を表示する

危険物施設 2 の「 [ ] 」を押します。
「顧客名一覧」画面が表示されます。

表示例

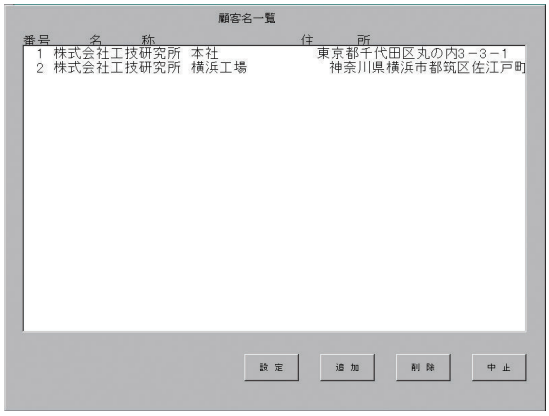


2 顧客名を設定する

顧客名一覧画面から危険物施設2の顧客名を選択します。

3 ［設定］ボタンを押す

※一覧に該当する顧客名がない場合、追加ボタンを押し、設定してください。



顧客名一覧画面

● タンクローリー仕様を設定する

表示されているタンクローリー仕様のタンク（槽）の仕様を設定します。

1 テンキーを表示する

槽の下側の「 　　 」を押します。
「テンキー」が表示されます。

表示例

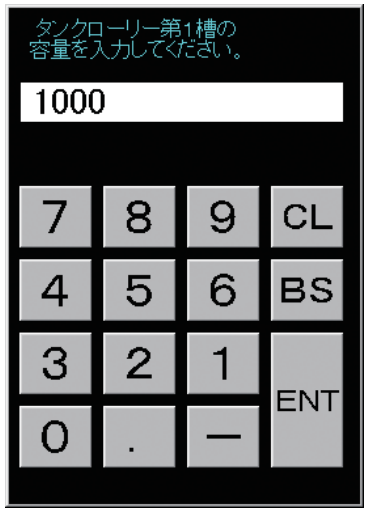
2 槽の容量を入力する

表示されたテンキーで槽の容量を設定します。

3 ENT ボタンを押す

4 繰り返して容量を設定する

表示されている槽全てを手順1と2を繰り返して設定します。



5 液種一覧画面を表示する

次の段の「 　　 」を押します。
「液種一覧」画面が表示されます。

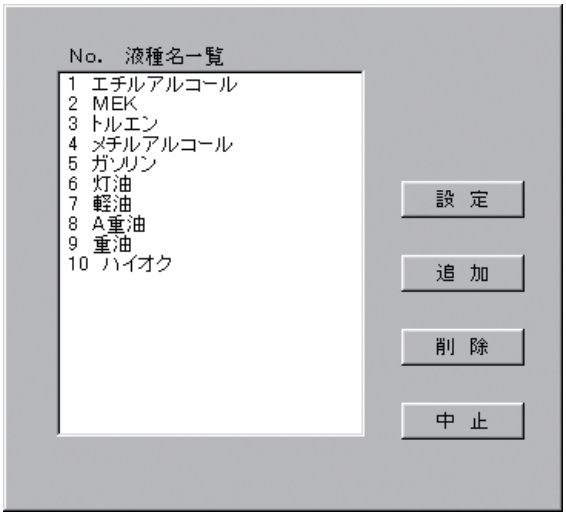
表示例

6 液種を設定する

液種名一覧画面で槽で使用する液種を設定します。

7 設定 ボタンを押す

※液種名の設定：81ページ



液種一覧画面

● チャンネル番号を設定する

槽に対応するチャンネル番号を設定します。

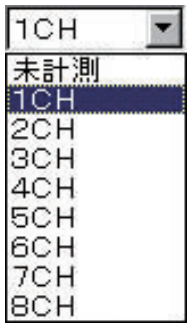
1 チャンネル一覧を表示する

次の段の [▼] を押します。
プルダウンメニューが表示されます。

表示例

2 チャンネルを設定する

プルダウンメニューから槽に対応するチャンネルを選択します。
未計測を選択すると、その槽は計測されません。
※間違いがないことを必ず確認してください。



● ナンバープレートを設定する

検査をおこなうタンクローリー車のナンバープレートの登録番号を入力します、

1 テンキーを表示する

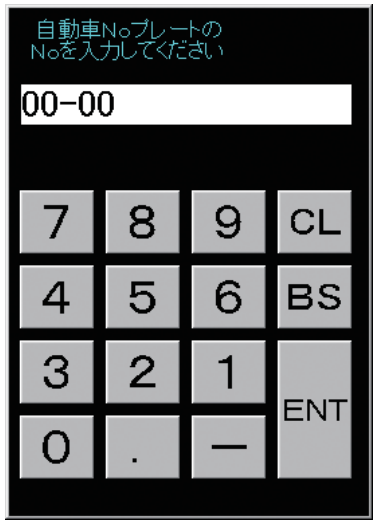
ナンバープレート No 下側の「 [　　] 」を押します。
「テンキー」が表示されます。

表示例

2 タンクローリー車の登録番号を設定する

表示されたテンキーでタンクローリー車の登録番号を入力します。

3 [ENT] ボタンを押す



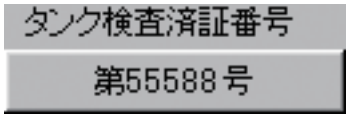
● 検査済証番号を設定する

検査をおこなうタンクローリー車の検査済証番号を入力します、

1 テンキーを表示する

タンク検査済証番号下側の「 　　 」を押します。
「テンキー」が表示されます。

表示例



2 検査証番号を設定する

表示されたテンキーで検査済証番号を入力します。

3 ENT ボタンを押します。

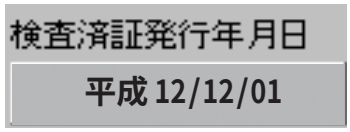
● 検査済証発行年月日を設定する

検査をおこなうタンクローリー車の検査済証発行年月日を入力します、

1 テンキーを表示する

検査済証発行年月日の「 　　 」を押します。
「テンキー」が表示されます。

表示例



2 検査済証発行年月日を設定する

表示されたテンキーで検査済証発行の年月日を入力します。

3 ENT ボタンを押す

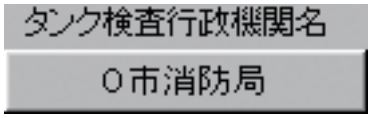
● タンク行政機関名を設定する

検査をおこなうタンクローリー車を管理する行政機関名を設定します。

1 タンク行政機関名一覧を表示する

タンク行政機関名下側の「 　　 」を押します。

表示例

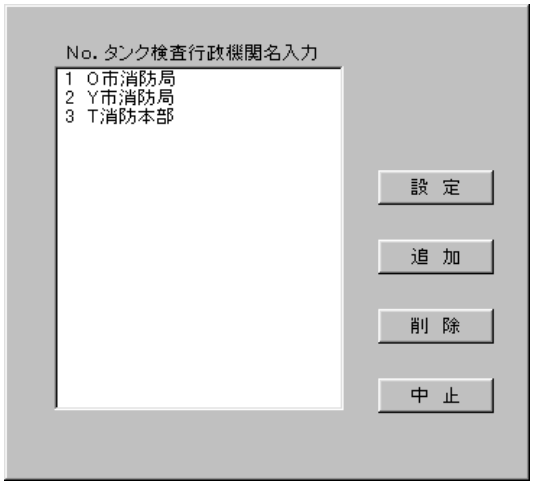


2 タンク行政機関名を設定する

表示された画面からタンク行政機関名を選択します。

3 設定 ボタンを押す

※一覧に該当するタンク行政機関名がない場合、追加ボタンを押し、設定してください。



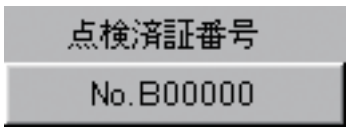
タンク行政機関名一覧画面

● 点検証発行番号を設定する

1 テンキーを表示する

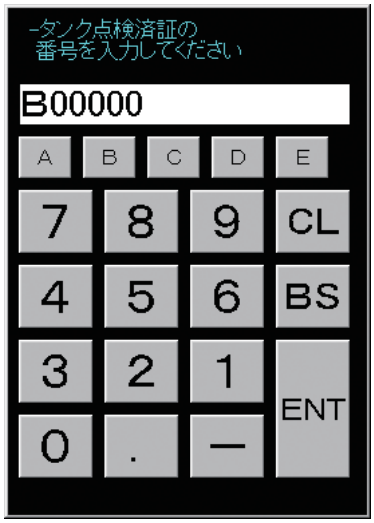
点検済証発行番号下側の「 　　 」を押します。
「テンキー」が表示されます。

表示例



2 点検済証発行番号を入力する

表示されたテンキーで点検済証発行番号を入力します。



3 ENT ボタンを押す

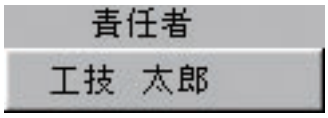
● 責任者を設定する

タンク点検の責任者を設定します。

1 作業者一覧画面を表示する

責任者下側の「 　　 」を押します。
「作業者名一覧」画面が表示されます。

表示例

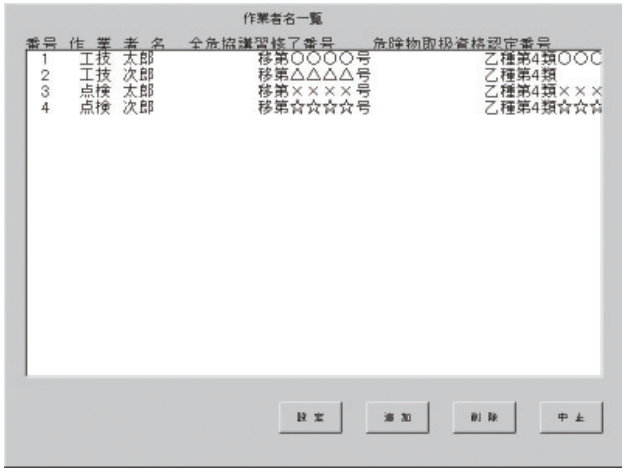


2 責任者を設定する

表示された画面で作業責任者を選択します。

3 設定 ボタンを押す

※一覧に該当者がない場合、追加ボタンを押し、
設定してください。



作業者名一覧画面

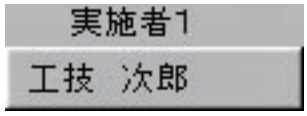
● 実施者を設定する

点検実施者 1 および 2 を設定します。

1 作業者一覧画面を表示する

実施者 1 下側の「 　　 」を押します。
「作業者名一覧」画面が表示されます。

表示例



2 点検実施者 1 を設定する

表示された画面で点検実施者 1 を選択します。

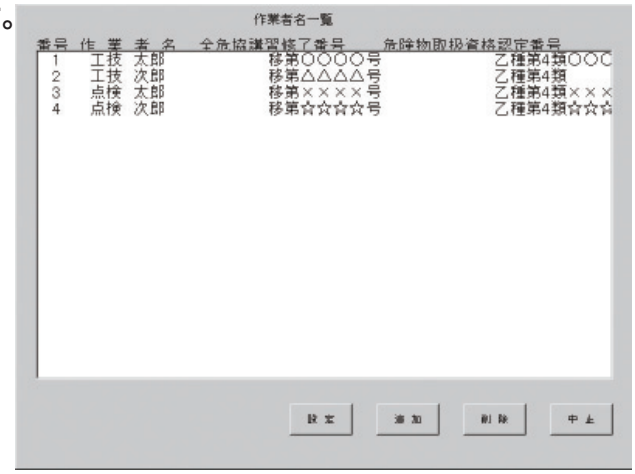
3 設定 ボタンを押す

4 作業者一覧画面を表示する

実施者 2 下側の「 　　 」を押します。
「作業者名一覧」画面が表示されます。

5 点検実施者 2 を設定する

表示された画面で点検実施者 2 を選択します。



作業者名一覧画面

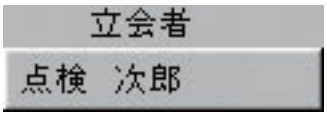
6 設定 ボタンを押す

※一覧に該当者がない場合、追加ボタンを押し、設定してください。

●立会者を設定する

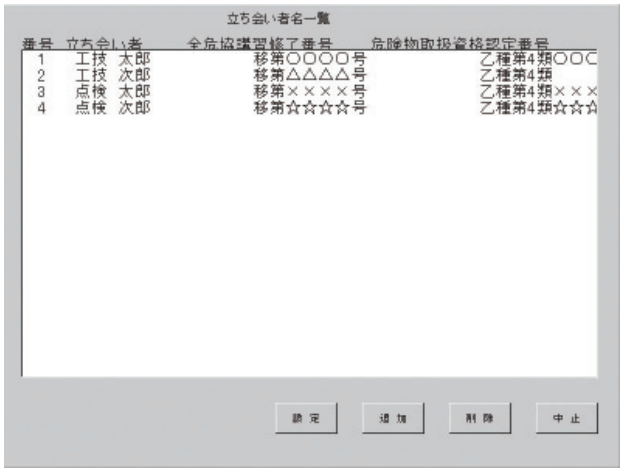
点検時の立会者を設定します。

表示例



1 立会者名一覧画面を表示する

立会者名下側の「 　　 」を押します。
「立ち会い者名一覧」画面が表示されます。



立ち会い者名一覧画面

2 立会者を設定する

表示された画面で立会者を選択します。

3 設定 ボタンを押す

※一覧に該当者がない場合、追加ボタンを押し、
設定してください。

●天候を設定する

表示例

1 天候一覧画面を表示する

天候の ▼ を押します。
プルダウンメニューが表示されます。

2 天候を選択する

表示されたプルダウンメニューから現在の天候を選択します。

●2車両目の設定をする

1 2車両目設定画面を表示する

2車両目設定 を押します。

2 2車両目のタンクローリー条件入力

1車両目と同様にタンクローリー条件入力を
おこなってください。

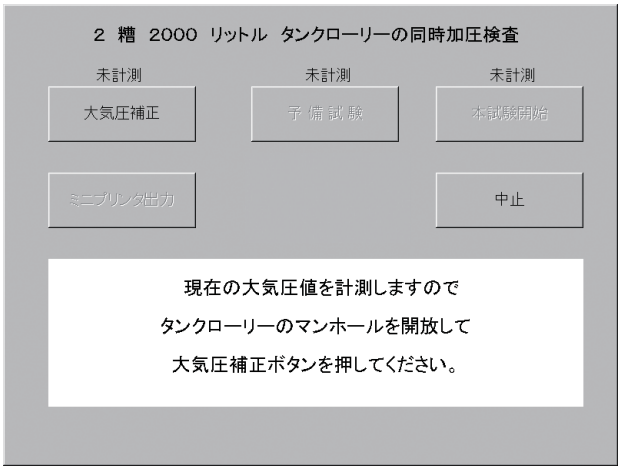
■ 計測を開始する

● 計測画面を表示する

1 **計測開始** ボタンを押します

「計測」画面が表示されます。

※ **中止** ボタンを押すと計測を中止します。



● 大気圧を補正する

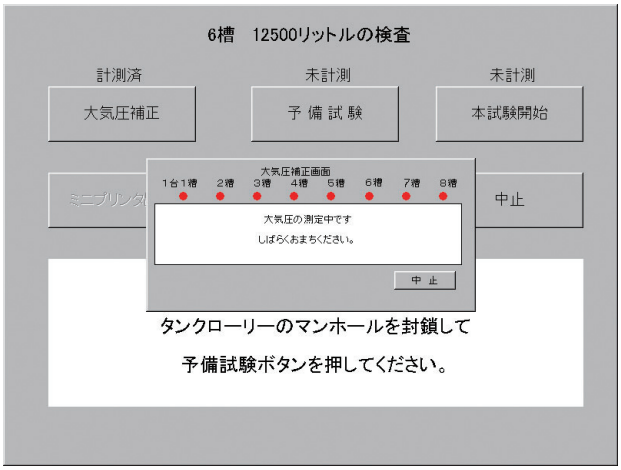
気圧の変化による圧力計測のゼロ点ずれを補正します。

1 マンホールを開放する

2 **大気圧補正** ボタンを押す

各チャンネルの大気圧を測定します。

※ **中止** ボタンを押すと計測を中止します。



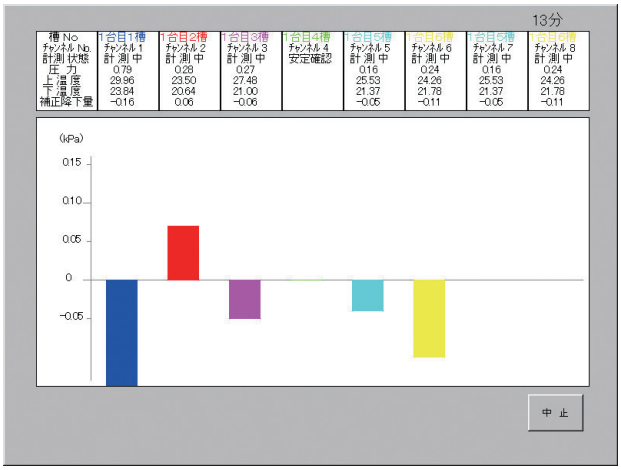
● 予備試験をする

タンク室の圧力変化を測定しタンク室が安定状態に入っているか確認ます。

1 タンク室の開放部を密閉する

2 **予備試験** ボタンを押す

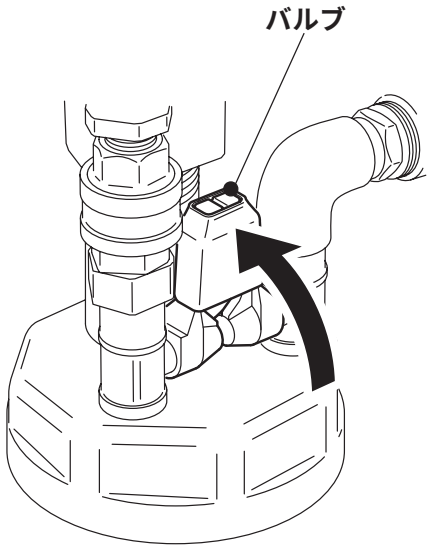
※ **中止** ボタンを押すと計測を中止します。



予備試験で漏洩があった場合

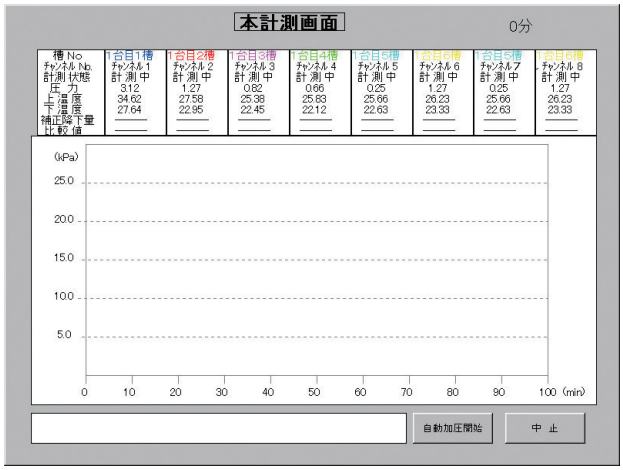
試験対象施設に問題がある場合の他検査装置の接続部に問題がある可能性がありますので、接続部を充分点検し問題があったなら正常に戻した後、再検査を行ってください。

● 本試験を開始する



1 窒素ボンベのバルブを開き、センサアッセンブリのバルブを開きます。

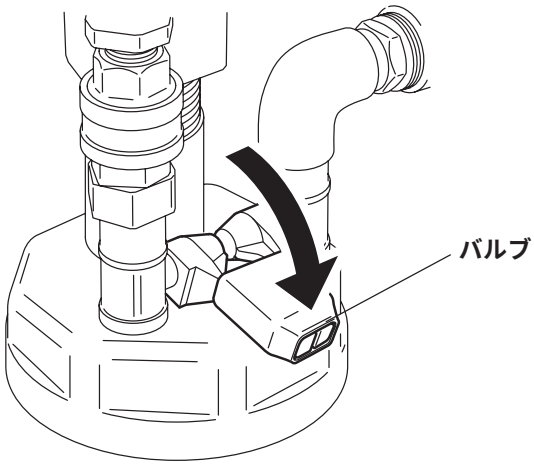
2 本試験開始 ボタンを押します。
画面が本計測画面になったら
自動加圧開始 ボタンを押します。



※ 中止 ボタンを押すと計測を中止します。
※ 加圧中､接合箇所になどに石けん水などを塗布し、目視によって漏れがないか確認してください。
※ 20kPaになるまで画面及びセンサアッセンブリ の圧力値を監視し、加圧が完了するまでの間作業されている方はその場を離れないでください。
※ 異常がみとめられた際は、加圧コントローラの緊急停止ボタンを押し、窒素の供給を止めてください。

3 試験圧力に達すると本試験画面に「自動加圧終了です。」と表示され､自動的に加圧が止まります。
センサアッセンブリのバルブおよび窒素ガスボンベのバルブを閉じます。

※ 測定データに基づき、財団法人全国危険物安全協会が定める報告書を編集作業によりおこないます。

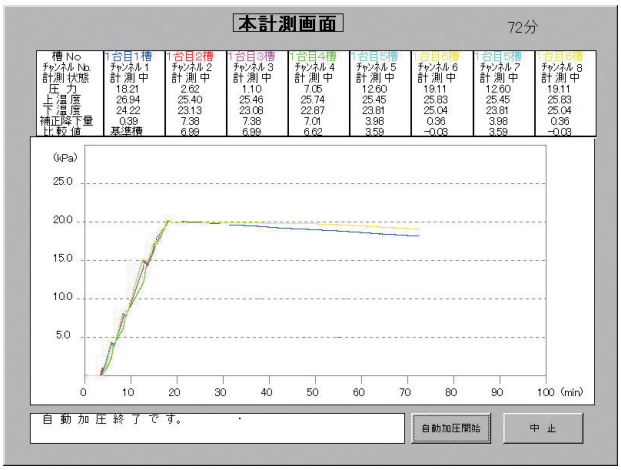


⚠注意

加圧が完了するまでの間、本体画面並びにセンサアッセンブリの圧力値を監視し、作業員の方は、その場を離れないでください。

4 加圧終了後、20 分間の静置時間をおき、40 分間計測を行います。
計測が終了すると、計測結果が表示され 5 分間のバックアップ及び演算処理が行われます。

※ 中止 ボタンを押すとデータは記録されません。



●判定について

・温度補正圧力降下量算出

加圧終了後 20 分間静置く時間を置き、その後 40 分後の平均温度と圧力の変化を計測し、次の計算式により温度補正圧力降下量を算出します。

$$\triangle P_{40}=P_{20}-P_{60}\ \frac{T_{20}}{T_{60}}$$

$\triangle P_{40}$：40 分間の温度補正圧力降下量　kPa
P_{20}　：20 後の圧力測定値＋ 101.33kPa　ads（有効桁数小数第 2 位）
P_{60}　：60 後の圧力測定値＋ 101.33kPa　ads（有効桁数小数第 2 位）
T_{20}　：20 後のタンク平均温度
　　測定値＋ 273.15 ° K　（有効桁数小数第 2 位）
T_{60}　：60 後のタンク平均温度
　　測定値＋ 273.15 ° K　（有効桁数小数第 2 位）

$P_{60}\ \frac{T_{20}}{T_{60}}$　：加圧終了から60分後における絶対圧力値を、加圧終了から20分後の温度における絶対圧力に補正した値

・判定

判定は、次の計算式によりおこなっています。

温度補正圧力降下量	判定結果
$\triangle P_{40} \leqq 0.20$kPa	異常なし
0.20kPa $< \triangle P_{40} \leqq$ 0.40kPa	再試験　※
0.40kPa $< \triangle P_{40}$	異常あり

※再試験は、タンク室の密閉状態、加圧ホースなどの接続状態を再確認した後実施してください、

多槽のタンクを有するタンクで隣接するタンクを同時に加圧し、それぞれのタンク室について試験する場合は、各タンク室ごとの温度補正圧力降下量（$\triangle P_{40}$）のうち最小の値（$\triangle$ Pmin）を示したタンクを基準タンク室として、次の計算式により他のタンク室ごとの比較値を算出します。

・各タンク室ごとの比較値　Po ＝$\triangle$ Pn − Pmin

$\triangle$ Pn　　：基準タンク室以外のタンク室の温度補正圧力降下量　kPa
$\triangle$ Pmin　：基準タンク室の温度補正圧力降下量　kPa

温度補正圧力降下量比較値		判定結果
$\triangle$ Pmin $\leqq$ 0.20kPa で	Po $\leqq$ 0.20kPa の時	異常なし
$\triangle$ Pmin $\leqq$ 0.20kPa で 0.20kPa $<$	Po $\leqq$ 0.40kPa の時	再試験　※
0.20kPa $<\triangle$ Pmin $\leqq$ 0.40kPa で	Po $\leqq$ 0.20kPa の時	再試験　※
上記以外の場合		異常あり

※再試験は、タンク室の密閉状態、加圧ホースなどの接続状態を再確認した後実施してください。

■計測終了時の処置

計測が終了したら接続した器具を取り外し、現場を復帰します。

● ガス抜き作業

① 加圧をおこなったタンクのセンサアッセンブリのバルブを各槽同時かつ徐々に開放しタンク室を大気圧に戻します。

> ⚠ 注意
>
> 急激にタンク室内のガスの放出を行うと施設を破損する恐れや大量の窒素ガス放出による周辺の酸欠状態を引き起こす可能性があるため、ガス抜き作業は十分時間をかけておこなうと供に各槽の圧力がほぼ等しくなるよう圧力計を見ながらバルブを調整するよう注意してください。

●センサアッセンブリの取り外し

① センサアッセンブリに接続されている加圧ホース、データ伝送ケーブルを外します。

② 検査用口からセンサアッセンブリを外します。

③ 検査用口を復帰します。

●加圧コントローラ

① 電源スイッチを切ります。

② 電源プラグを電源コンセントから外します。

③ 加圧ホースを外します。

④ ローリーエギザミナー 2 と接続している加圧コントローラ接続ケーブルを外します。

● 窒素ガスボンベ配管とレギュレータの取り外し

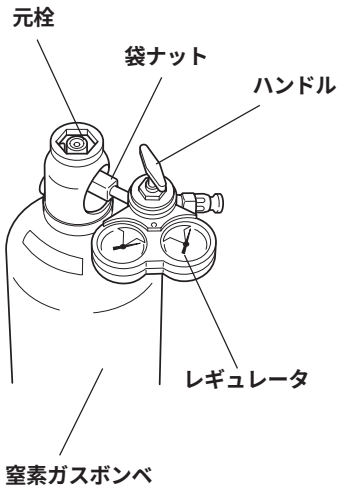
① 窒素ガスボンベ頂部の元栓を窒素ボンベ用ハンドルを使用して確実に締め付けます。

② レギュレータのハンドルを緩め、二次側圧力計がゼロを示していることを確認します。

③ 加圧ホースを外します。
※加圧ホース内部に窒素ガスが残っている場合がありますので、ガスの吸い込みにご注意ください。

④ レギュレータのハンドルを締め、一次側圧力計がゼロを示していることを確認します。

⑤ 袋ナットをモンキースパナなどで締め、レギュレータを窒素ガスボンベから外します。



> ⚠ 警告
>
> レギュレータの圧力計が一次側および二次側共にゼロ以外の値を示しているときは、レギュレータの取り外しは絶対に行わないこと。

●ローリーエギザミナー 2

① メインメニュー画面から 終了 ボタンを押します。

②「電源ランプ」消灯後、本体前面の「電源スイッチ」をオフ側に回します。

③ 加圧コントローラ前面の「電源スイッチ」を OFF にします。

④ 電源プラグを電源コンセントから外します。

⑤ データ伝送ケーブルを外します。

⑥ 加圧コントローラと接続している加圧コントロ－ラ接続ケーブルを外します。

⑦ 左側のフタおよび前面のフタを閉じます。

●センサアッセンブリ組立品の取り外し

① ホルダアッセンブリ、下部温度センサ、安全弁などセンサアッセンブリに取り付けられているものを外します。

●密閉部の開放

① 密閉した底弁口などの密閉用キャップを外し、試験前の状態に戻します。

●安全対策の撤去

① バリケードや警戒ロープ・消火器などを撤去し、試験前の状態に戻します。

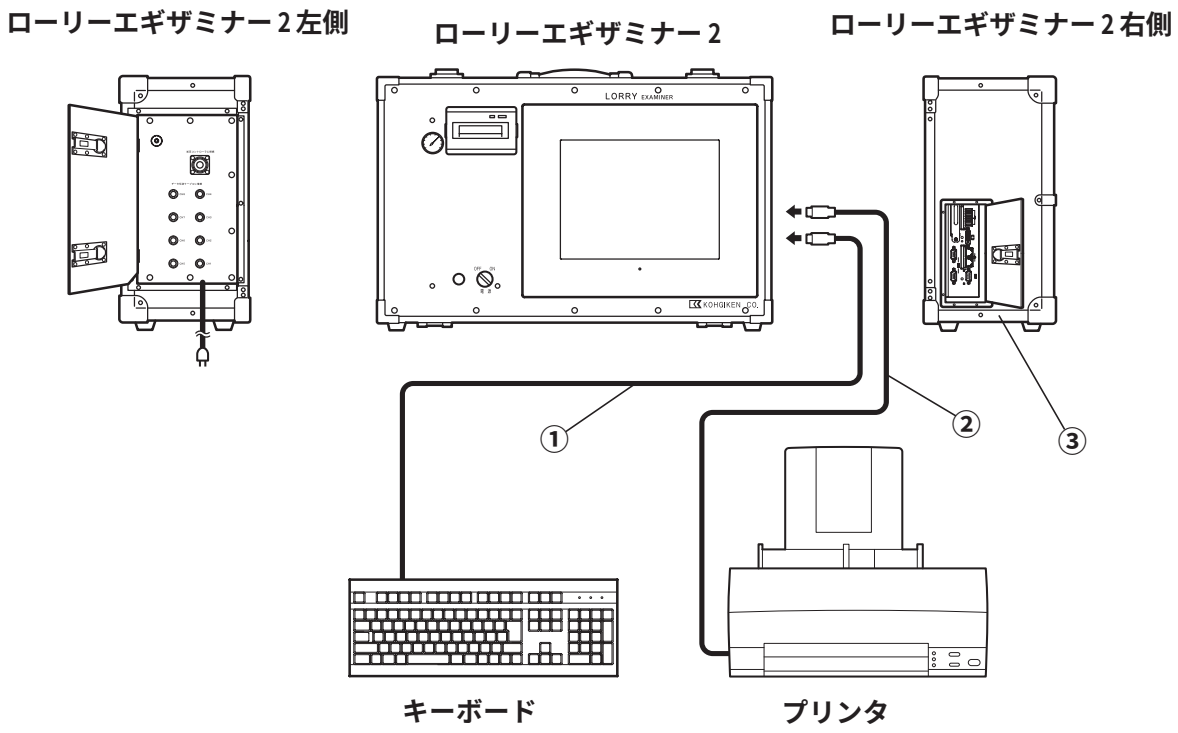
取り外した、ホース・キャップ・アダプタなどの数量を確認し、無くさないように保管してください。

データ整理

検査が終了し、事務所などで検査したデータを現場ごとのデータにまとめたり、報告書用プリンタによって書式に従った報告書を作成したり、USB メモリにデータを保存したりする場合は、次の手順にしたがってください。

■ 機器の接続

報告書を作成するときは、電源投入前に各機器を下図のように接続してください。



① ローリーエギザミナー 2 USB 接続部蓋を開き、USB コネクタにキーボードを接続します。

② USB コネクタにプリンタを接続します。

③ 計測したデータを USB メモリに保存するときは、右側 USB 接続部に USB メモリを接続します。（USB メモリは「リムーバブルディスク」と表示されます。）

⚠ 注意

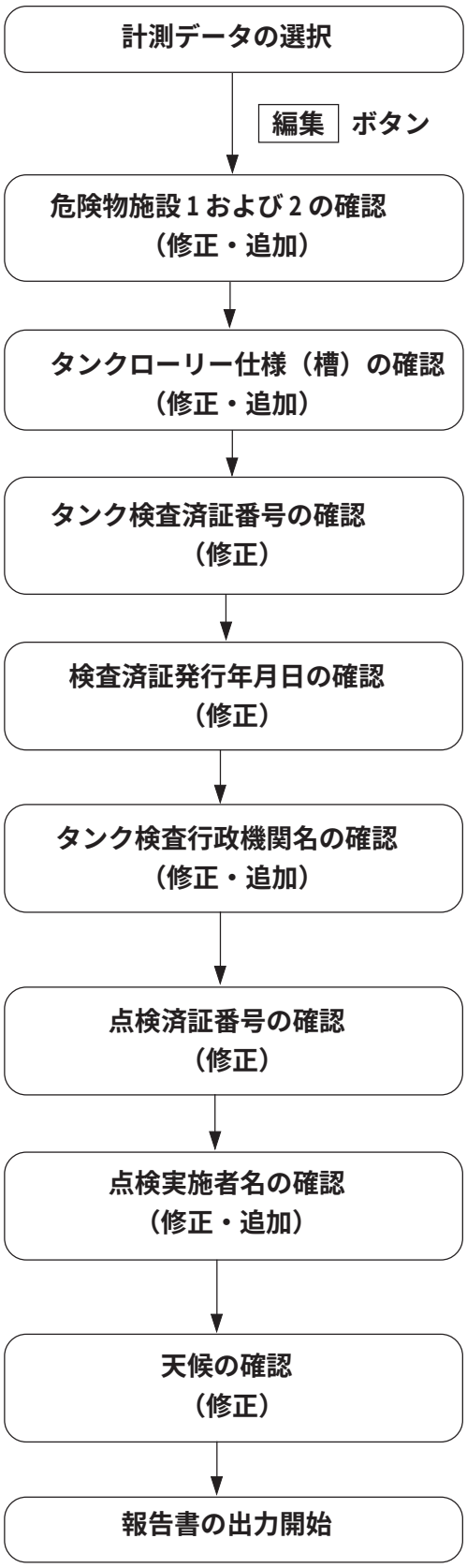
ローリーエギザミナー 2 の電源を OFF にしてから各コネクタの接続をしてください。電源が入ったまま接続すると機器の故障の原因になります。

計測後、報告書の印刷を行う際は、ローリーエギザミナー 2 の電源を 1 度 OFF にしてからおこなってください

■ 編集作業の流れについて

● 編集作業の流れと全危協書式

編集作業とは、現場で計測したデータを全危協書式に従った報告書として整えるための作業で、全危協書式・定期点検実施結果報告書の流れと各項目は以下のようになります。



処理するデータを選択します。（53 ページ）

1 危険物施設名をローリーエギザミナー2に記憶されている一覧から入力します。（追加することも可能です。）（53ページ）

2 タンクローリーの槽で使用していた液種をローリーエギザミナー 2 に記憶されている一覧から入力します。（追加することも可能です。）（54 ページ）

3 タンク検査済証の番号を表示されたテンキーで入力します。（55 ページ）

4 検査済証発行年月日を表示されたテンキーで入力します。（55 ページ）

5 タンク検査行政機関名をローリーエギザミナー 2 に記憶されている一覧から入力します。（追加することも可能です。）（56 ページ）

6 点検済証の番号を表示されたテンキーで入力します。（56 ページ）

7 責任者名、実施者名 1 および 2、立ち会い者名をローリーエギザミナー 2 に記憶されている一覧から入力します。（追加することも可能です。）（57 ページ）

8 検査時の天候を一覧から選択します。（59 ページ）

9 作成した報告書をプリンタで出力します。（60 ページ）

様式第32号（第27条関係）

移動貯蔵タンク定期点検実施結果報告書

平成　13 年　05 月 10 日

工技研石油株式会社　殿　1

点検実施事業者
認定番号　移（2）第○○○○○号
所　　在　東京都千代田区丸の内
名　　称　株式会社　工技研究所　　印
電話番号　××-××××-××××

消防法第１４条の３の２に基づく、移動タンク貯蔵所の定期点検のうち、移動貯蔵タンクの気密構造（水圧試験に係る部分）に係る異常の有無を確認しましたので、次のとおり報告いたします。

危険物施設	事業所名	工技研石油株式会社　1			
	所在地	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町△△△			
タンク検査済証番号　3	第 123456 号	検査年月日	平成 13/04/30　4	検査行政機関名	0 市消防局　5
タンク最大容量	14000　リットル		タンク槽数	8 槽	
点検実施者 氏名	責任者：工技　太郎		工技　太郎	点検　太郎　7	
点検実施者 講習修了証番号	移第□□□□□号		移第△△△号	移第△□△□号	
点検実施者 危険物取扱者免状	乙種第 4 類第○○○○			乙種第 4 類第××××	
点検実施年月日	平成　13 年　05 月　10 日	（天候：晴れ）　8			
点検方法	多槽ガス加圧法				
点検結果	第　1 槽　1000　リットル（液種：灯油）異常：無 第　2 槽　1000　リットル（液種：灯油）異常：無　2 第　3 槽　2000　リットル（液種：灯油）異常：無 第　4 槽　2000　リットル（液種：軽油）異常：無 第　5 槽　2000　リットル（液種：軽油）異常：無 第　6 槽　2000　リットル（液種：軽油）異常：無 第　7 槽　2000　リットル（液種：軽油）異常：無 第　8 槽　2000　リットル（液種：軽油）異常：無				
点検済証番号	No. B00000　6				
次期点検年月日	平成 17 年　05 月　10 日　まで				
立会い者氏名	点検　次郎　7		危険物取扱者免状	乙種第 4 類第○○○○	
備考	検査開始 17 時　07 分　　外気温度　25.1　℃				

注１：ガス加圧法による点検の場合は、様式第 33 号及び様式第 34 号を添付すること。
注２：液体加圧法による点検の場合は、様式第 35 号を添付すること。
注３：直接法による点検の場合は、非破壊試験の結果報告書を添付すること。
注４：この用紙の大きさは、日本工業規格Ａ４とすること。

■ 処理選択

機器の接続が完了したら、次の手順に従って「各種設定・編集」を表示させます。

●各種設定・編集画面を表示する

1 電源スイッチをオンにする

電源の投入は、「外部機器」（外部プリンタなど）→「ローリーエギザミナー 2」の順に電源スイッチをオンにします。

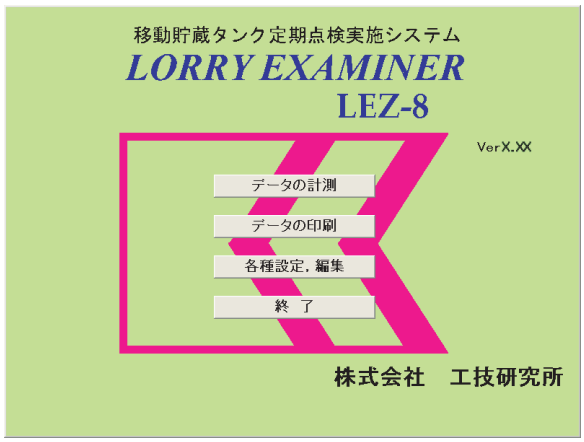
① 外部機器の「電源スイッチ」をオンにします。

② ローリーエギザミナー 2 前面の「電源スイッチ」をオン側に回します。
電源表示 LED が点灯し、「ロゴ」画面が表示され、続いてメインメニュー画面が表示されます。

ロゴ画面

2 各種設定・編集画面を表示する

各種設定・編集 ボタンを押します。
「各種設定・編集」画面が表示されます。



メインメニュー画面

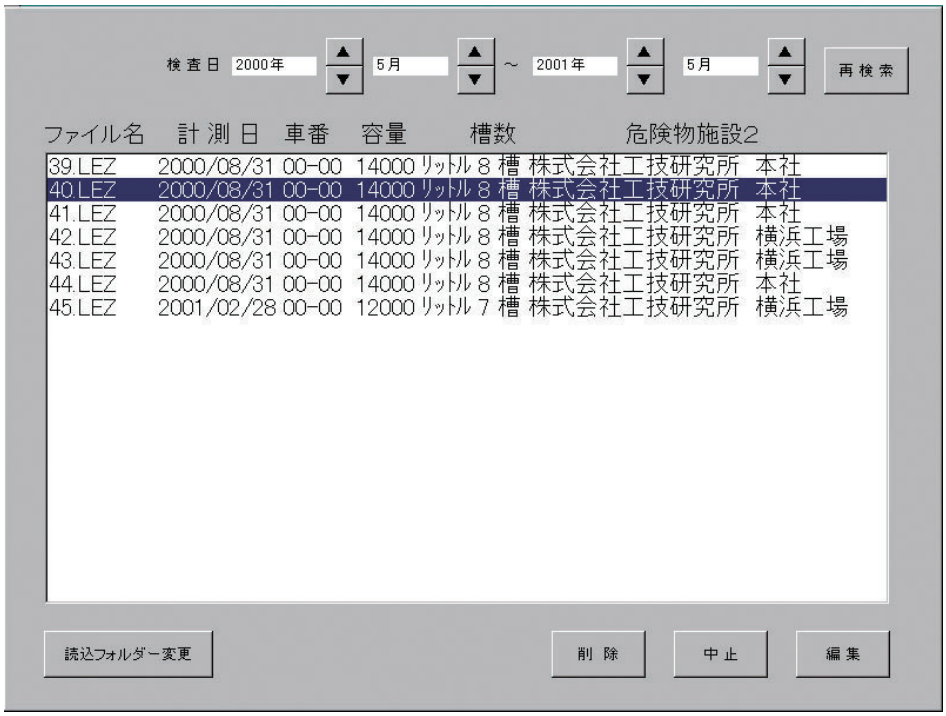
3 計測データー覧画面を表示する

「メインメニュー」画面で、 計測データ再編集 を押します。
「計測データー覧」画面が表示されます。

4 編集するデータを表示する

① 編集するデータを選択します。

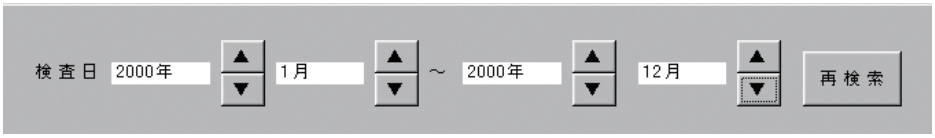
② 編集 ボタンを押します。
選択したデータの画面が表示されます。


検 査 日
2000年
5月
～
2001年
5月
再 検 索
ファイル名 計 測 日 車番 容量 槽数 危険物施設2
39.LEZ 2000/08/31 00-00 14000 リットル 8 槽 株式会社工技研究所 本社
40.LEZ 2000/08/31 00-00 14000 リットル 8 槽 株式会社工技研究所 本社
41.LEZ 2000/08/31 00-00 14000 リットル 8 槽 株式会社工技研究所 本社
42.LEZ 2000/08/31 00-00 14000 リットル 8 槽 株式会社工技研究所 横浜工場
43.LEZ 2000/08/31 00-00 14000 リットル 8 槽 株式会社工技研究所 横浜工場
44.LEZ 2000/08/31 00-00 14000 リットル 8 槽 株式会社工技研究所 本社
45.LEZ 2001/02/28 00-00 12000 リットル 7 槽 株式会社工技研究所 横浜工場
読込フォルダー変更
削 除
中 止
編 集

※計測データの年月日を指定して表示する場合は、次の操作をします。

① 検査日の ▲ または ▼ ボタンを押して、表示したい年月日を設定します。

② 再検索 ボタンを押します。
該当する計測データが表示されます。

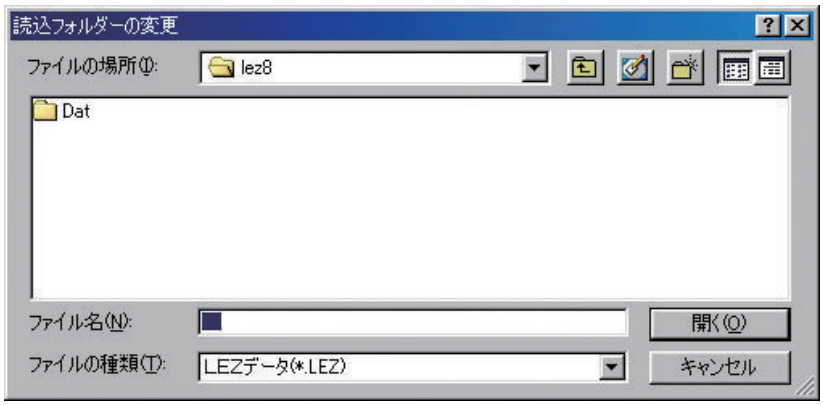


※読み込むフォルダを変更する場合は、次の操作をします。

① 読込フォルダー変更 ボタンを押します。
「読込フォルダーの変更」画面が表示されます。

② ファイルの場所の「▼」を押して、表示された、プルダウンメニューからフォルダを選択します。（USB メモリは「リムーバブルディスク」と表示されます。）

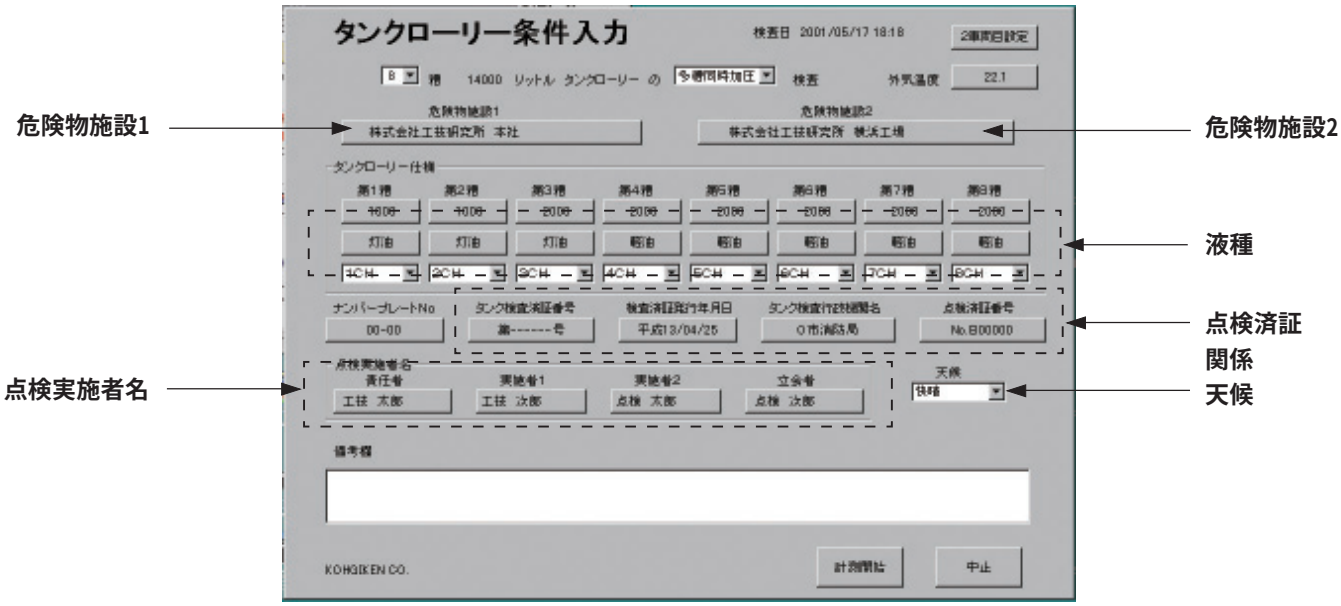
③ ファイルを選択して、開く ボタンを押します。



■ データを編集する

「タンクローリー条件入力」画面からデータを編集します。

※画面上グレーで表示されているボタンの内容は編集できません。

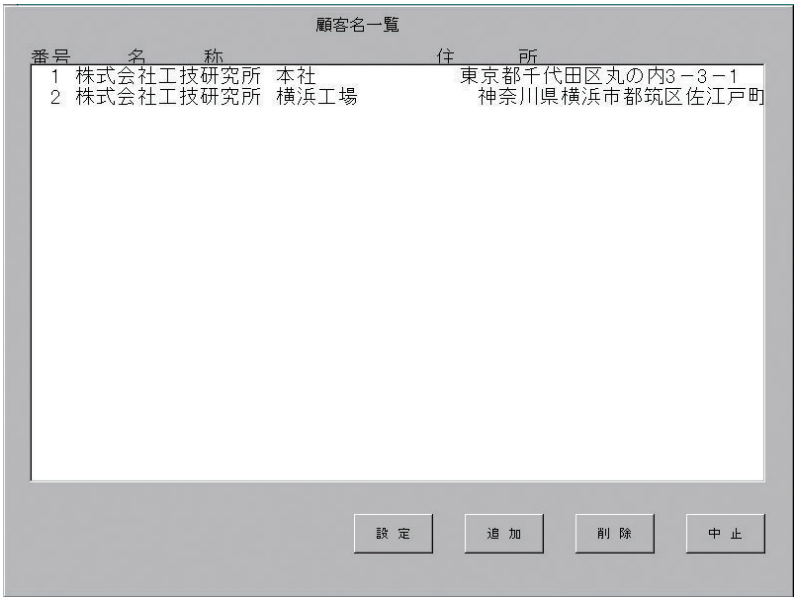


●危険物施設 1 の編集

- 点検をおこなった危険物施設の顧客名を編集します。
- 表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

① 危険物施設 1 下側の「　　」ボタンを押します。
「顧客名一覧」画面が表示されます。

② 顧客名を選択し、設定 ボタンを押します。
※該当の顧客名が表示されていない場合は、追加 ボタンを押して顧客名を追加します。参照「顧客名の設定」34 ページ

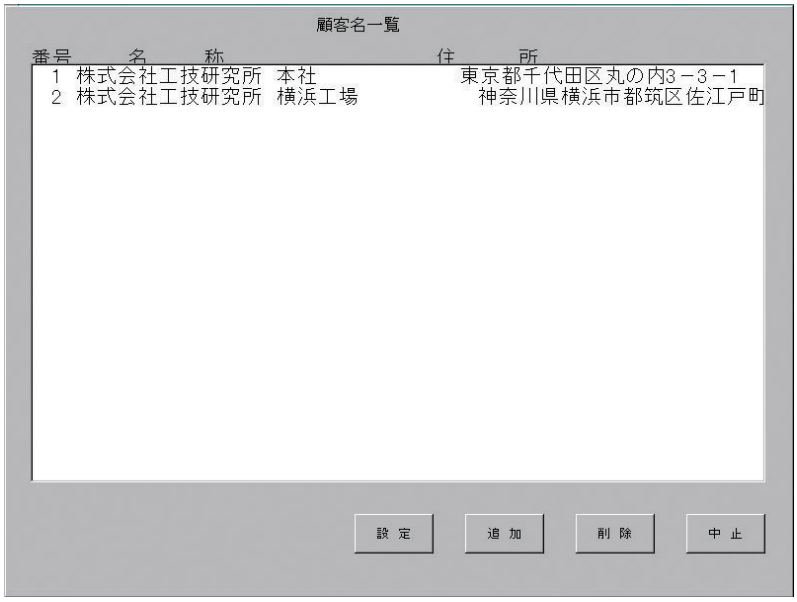


●危険物施設 2 の編集

・点検をおこなった危険物施設の顧客名を編集します。
・表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

① 危険物施設 2 下側の「　　」ボタンを押します。
「顧客名一覧」画面が表示されます。

② 顧客名を選択し、設定 ボタンを押します。
※該当の顧客名が表示されていない場合は、追加 ボタンを押して顧客名を追加します。参照「顧客名の設定」34 ページ

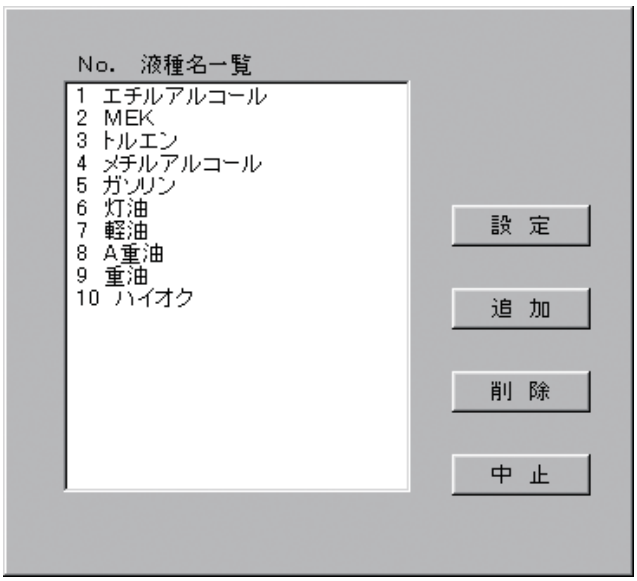


●液種の編集

・点検をおこなった危険物施設の液種を編集します。
・表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

① タンクローリー仕様の液種「　　」ボタンを押します。
「液種一覧」画面が表示されます。

② 液種を選択し、設定 ボタンを押します。
※該当の液種が表示されていない場合は、
追加 ボタンを押して液種を追加します。
参照「液種の設定」35 ページ



●タンク検査済証番号の編集

・点検をおこなった危険物施設のタンク検査済証番号を編集します。
・表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

① タンク検査済証番号下側の「 　　 」ボタンを押します。
テンキーが表示されます。

② テンキーで検査済証番号を入力します。

③ ENT ボタンを押します。

●検査済証発行年月日の編集

・点検をおこなった危険物施設の検査済証発行年月日を編集します。
・表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

① 検査済証発行年月日下側の「 　　 」ボタンを押します。
テンキーが表示されます。

② テンキーで検査済証発行の年月日を入力します。

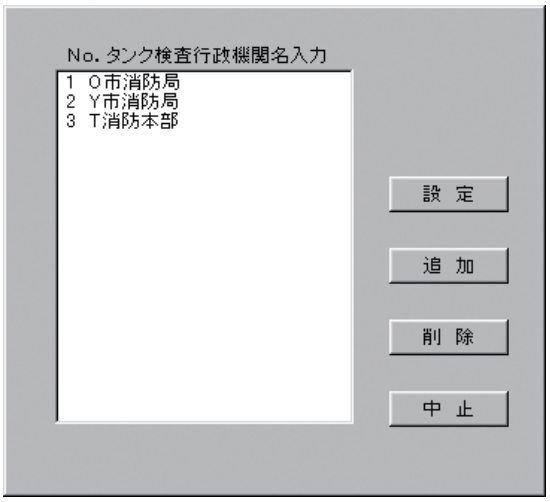
③ ENT ボタンを押します。

●タンク検査行政機関名の編集

・点検をおこなった危険物施設のタンク検査行政機関名を編集します。
・表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

① タンク検査行政機関名下側の「 　　 」ボタンを押します。
「タンク検査行政機関名入力」画面が表示されます。

② タンク検査行政機関名を選択し、設定 ボタンを押します。
※該当のタンク検査行政機関名が表示されていない場合は、 追加 ボタンを押してタンク検査行政機関名を追加します。参照「タンク検査行政機関名の設定」38 ページ



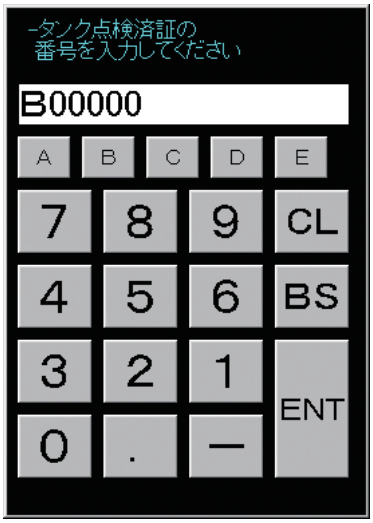
●点検済証番号の編集

・点検をおこなった危険物施設の点検済証番号を編集します。
・表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

① 点検済証番号下側の「 　　 」ボタンを押します。
テンキーが表示されます。

② テンキーで点検済証番号を入力します。

③ ENT ボタンを押します。



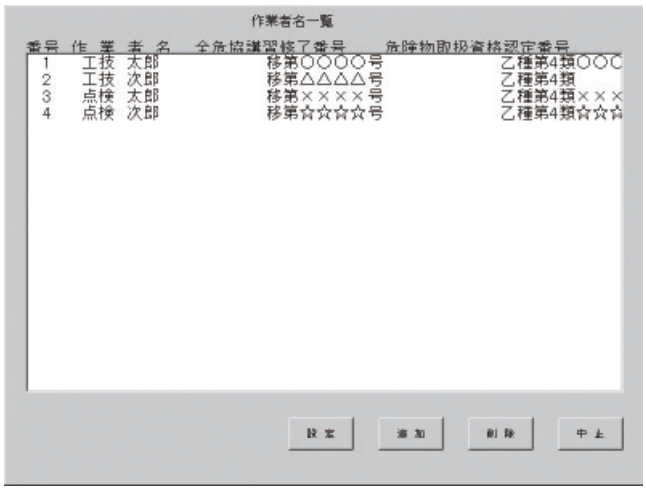
●点検実施者名の編集

・点検をおこなったときの点検実施者名（責任者、実施者 1、実施者 2、立会者）を編集します。
・表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

◇責任者の編集

① 責任者下側の「 　　 」ボタンを押します。
「作業者名一覧」画面が表示されます。

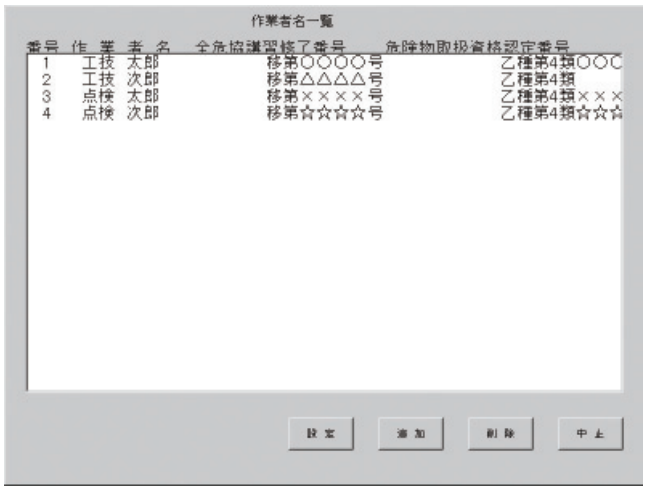
② 検査時の責任者を選択し、設定 ボタンを押します。
※該当の責任者名が表示されていない場合は、 追加 ボタンを押して責任者名を追加します。参照「作業者名の設定」39 ページ



◇実施者 1 の編集

① 実施者 1 下側の「 　　 」ボタンを押します。
「作業者名一覧」画面が表示されます。

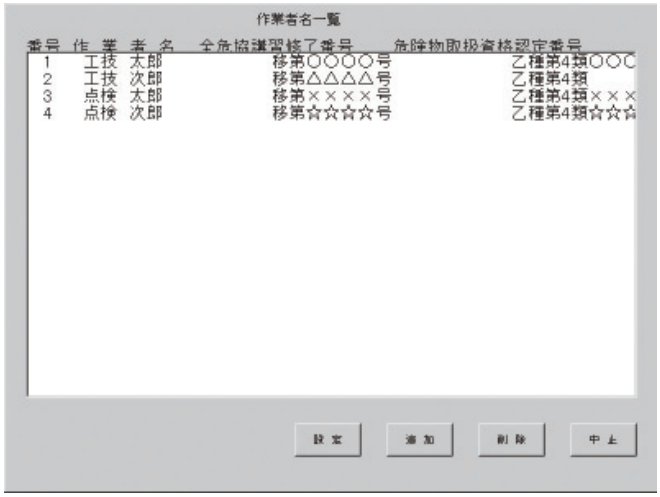
② 検査時の実施者 1 を選択し、 設定 ボタンを押します。
※該当の実施者名が表示されていない場合は、 追加 ボタンを押して実施者名を追加します。参照「作業者名の設定」39 ページ



◇実施者 2 の編集

① 実施者 2 下側の「 　　 」ボタンを押します。
「作業者名一覧」画面が表示されます。

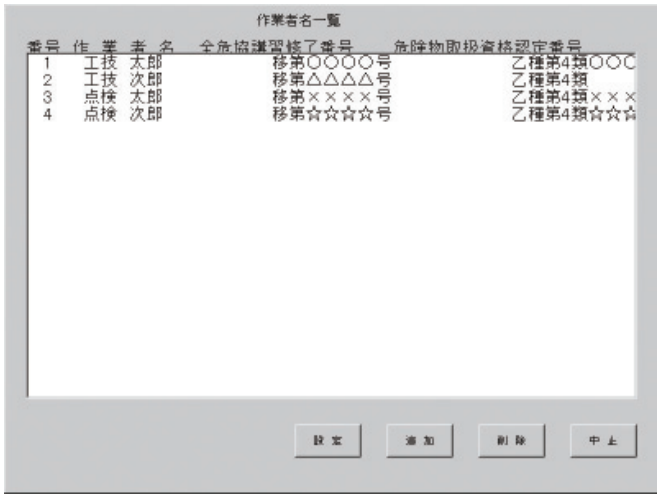
② 検査時の実施者2を選択し、 設定 ボタンを押します。
※該当の実施者名が表示されていない場合は、 追加 ボタンを押して実施者名を追加します。参照「作業者名の設定」39 ページ



◇立会者の編集

① 立会者下側の「 　　 」ボタンを押します。
「作業者名一覧」画面が表示されます。

② 検査時の立会者を選択し、 設定 ボタンを押します。
※該当の立会者名が表示されていない場合は、 追加 ボタンを押して立会者名を追加します。参照「作業者名の設定」40 ページ



●天候の編集

・点検をおこなった際の天候を編集します。
・表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

① 天候の「▼」ボタンを押します。
「天候一覧」画面が表示されます。

② 該当の天候を選択します。

●コメントの編集

・計測データに対するコメントを編集します。
・コメントがない場合や表示されている内容に変更がない場合は、編集の必要はありません。

① コメントの入力欄をクリックします。

② コメントを入力します。

■ 編集が終わったら

計測データの編集が終わったら、編集画面を終了します。

1 編集画面を終了する

① 中止 ボタンを押します。
「各種設定、編集」画面に戻ります。

② 中止 ボタンを押します。
ローリーエギザミーナー2の「メインメニュー」画面に戻ります。

■ 報告書を作成する

データの編集が終了したら報告書を作成します。

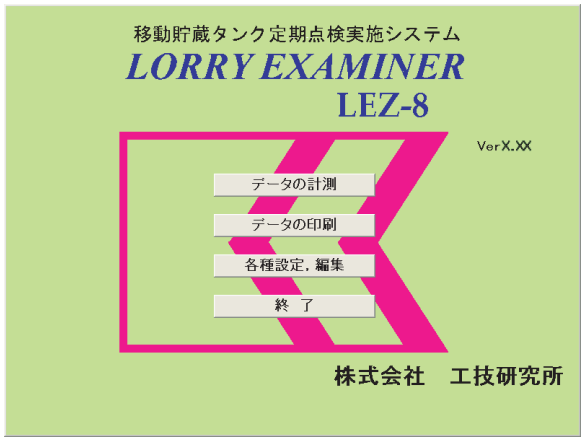
ご注意

報告書を作成する場合は、必ず外部プリンタを接続して外部プリンタに出力してください。内蔵ミニプリンタに出力すると無意味な記号としてデータが出力され、印刷を中止するには本体の電源を切る以外に方法がなくなります。
また、プリンタが接続されていて、プリンタの電源が入っていることも確認してください。

1 計測データー覧画面を表示する

メインメニュー画面から [データの印刷] ボタンを押します。

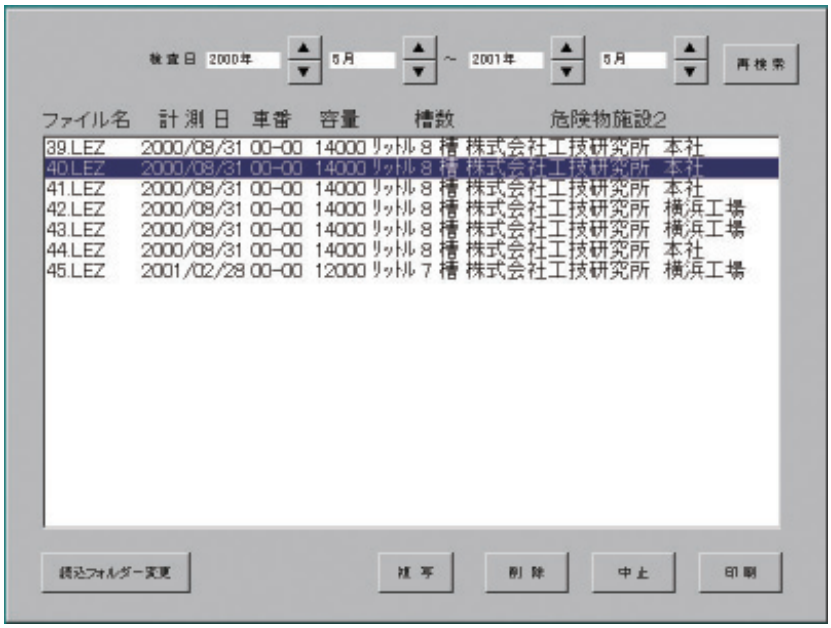
「編集データー覧」画面が表示されます。



2 印刷するデータを選択する

① 印刷するデータを選択します。

② [印刷] ボタン押します。
「印刷」画面が表示されます。
※印刷を中止するときは、[中止] ボタンを押します。

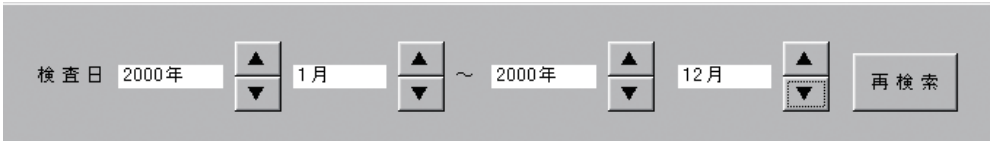


● 検査月を指定して表示する場合

検査年月を指定して、該当する計測データを表示します。

① 検査月の ▲ または ▼ ボタンを押して、表示したい年月を設定します。

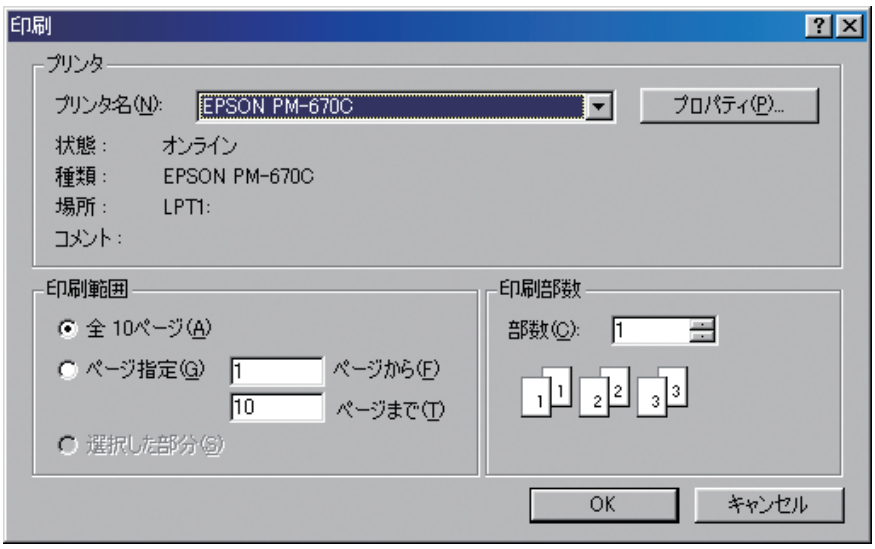
② 再検索 ボタンを押します。
該当する計測データが表示されます。



3 印刷を実行する

① OK ボタンを押します。
印刷が始まります。

※「印刷」画面は、お使いのプリンタにより異なります。また、プリンタの設定などについては、プリンタの取扱説明書を参照してください。



様式第32号（第27条関係）

移動貯蔵タンク定期点検実施結果報告書

平成　13 年　05 月 10 日

工技研石油株式会社　殿

点検実施事業者
認定番号　移（2）第○○○○○号
所　　在　東京都千代田区丸の内　　印
名　　称　株式会社　工技研究所
電話番号　××-××××-××××

消防法第１４条の３の２に基づく、移動タンク貯蔵所の定期点検のうち、移動貯蔵タンクの気密構造（水圧試験に係る部分）に係る異常の有無を確認しましたので、次のとおり報告いたします。

危険物施設	事業所名	工技研石油株式会社				
	所在地	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町△△△				
タンク検査済証番号		第 123456 号	検査年月日	平成 13/04/30	検査行政機関名	0 市消防局
タンク最大容量		14000　リットル		タンク槽数	8 槽	
点検実施者	氏　　名	責任者：工技　太郎		工技　太郎		点検　太郎
	講習修了証番号	移第□□□□□号		移第△△△号		移第△□△□号
	危険物取扱者免状	乙種第 4 類第○○○○				乙種第 4 類第××××
点検実施年月日		平成　13 年　05 月　10 日　　（天候：晴れ）				
点検方法		多槽ガス加圧法				
点検結果		第　1 槽　1000　リットル（液種：灯油　）異常：無 第　2 槽　1000　リットル（液種：灯油　）異常：無 第　3 槽　2000　リットル（液種：灯油　）異常：無 第　4 槽　2000　リットル（液種：軽油　）異常：無 第　5 槽　2000　リットル（液種：軽油　）異常：無 第　6 槽　2000　リットル（液種：軽油　）異常：無 第　7 槽　2000　リットル（液種：軽油　）異常：無 第　8 槽　2000　リットル（液種：軽油　）異常：無				
点検済証番号		No. B00000				
次期点検年月日		平成 17 年　05 月　10 日　まで				
立会い者氏名		点検　次郎		危険物取扱者免状		乙種第 4 類第○○○○
備　　考		検査開始 17 時　07 分　　外気温度　25.1　℃				

注１：ガス加圧法による点検の場合は、様式第 33 号及び様式第 34 号を添付すること。
注２：液体加圧法による点検の場合は、様式第 35 号を添付すること。
注３：直接法による点検の場合は、非破壊試験の結果報告書を添付すること。
注４：この用紙の大きさは、日本工業規格Ａ 4 とすること。

様式第34号

移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表

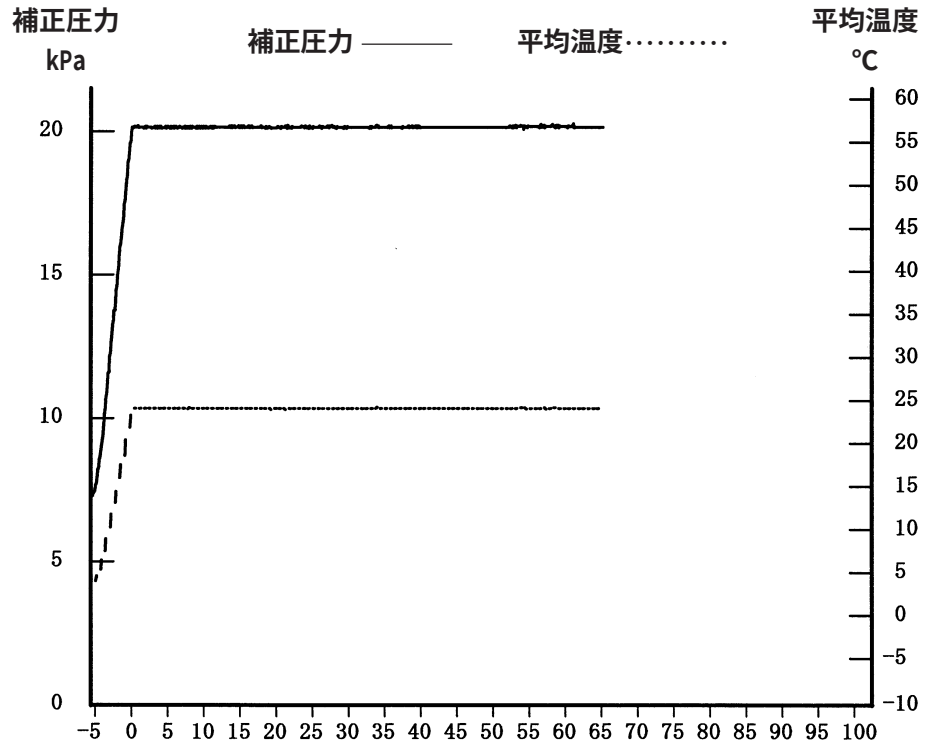
No.00-00

＜移動貯蔵タンク定期点検実施データ表（ガス加圧法）＞

第　1　槽　容量：　1000L　　液種：　灯油

計測時間	計測圧力 kPa	補正圧力 kPa	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
10分前	－0.01	－0.01	4.36	4.36	4.36
確認時	－0.05	－0.02	4.31	4.32	4.31
0分	20.13	20.13	24.53	24.48	24.50
5分後	20.14	20.14	24.51	24.50	24.50
10分後	20.13	20.13	24.51	24.51	24.51
15分後	20.19	20.17	24.56	24.55	24.55
20分後	20.14	20.14	24.51	24.51	24.51
25分後	20.18	20.16	24.55	24.54	24.54
30分後	20.16	20.15	24.52	24.52	24.52
35分後	20.15	20.14	24.53	24.52	24.52
40分後	20.15	20.14	24.53	24.52	24.52
45分後	20.16	20.14	24.52	24.55	24.54
50分後	20.15	20.14	24.53	24.53	24.53
55分後	20.21	20.18	24.57	24.57	24.57
60分後	20.21	20.18	24.58	24.58	24.58

＜移動貯蔵タンク定期点検実施経過表（ガス加圧法）＞



注：計測時間が10分前、確認時の欄には、予備試験データを記録すること

様式第34号

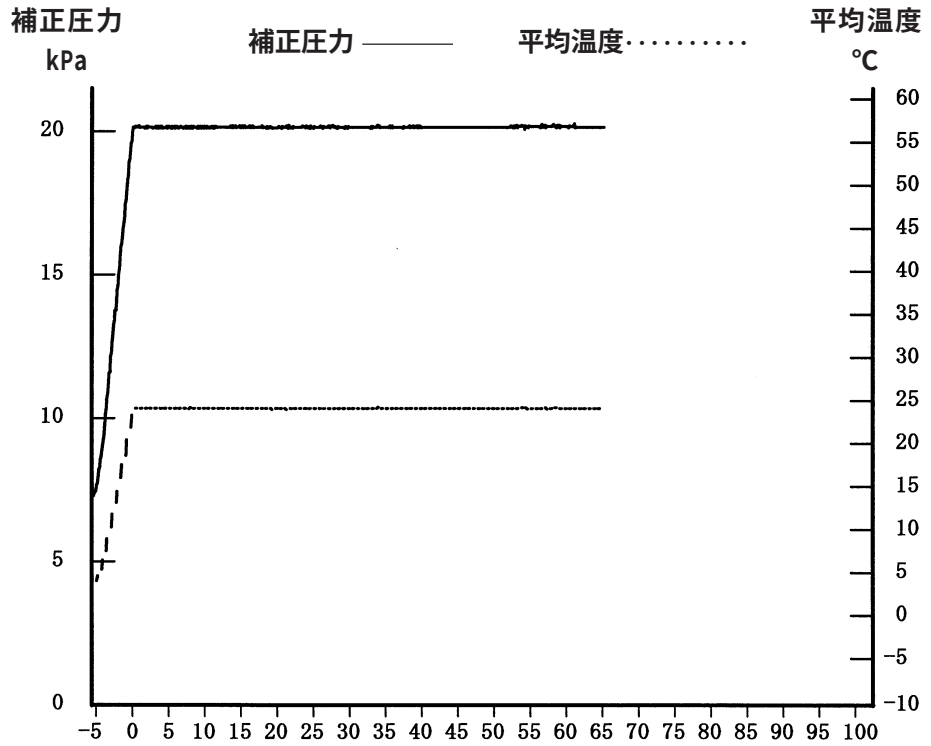
移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表　No.00-00

＜移動貯蔵タンク定期点検実施データ表（ガス加圧法）＞

第　2槽　容量：　1000L　　液種：灯油

計測時間	計測圧力 kPa	補正圧力 kPa	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
10分前	－0.01	－0.01	4.36	4.36	4.36
確認時	－0.05	－0.02	4.32	4.32	4.32
0分	20.13	20.13	24.54	24.47	24.50
5分後	20.13	20.13	24.50	24.51	24.50
10分後	20.14	20.13	24.51	24.52	24.51
15分後	20.19	20.16	24.55	24.56	24.55
20分後	20.14	20.14	24.50	24.51	24.50
25分後	20.18	20.16	24.54	24.54	24.54
30分後	20.15	20.14	24.52	24.53	24.52
35分後	20.16	20.14	24.52	24.54	24.53
40分後	20.16	20.15	24.53	24.52	24.52
45分後	20.17	20.15	24.55	24.53	24.54
50分後	20.16	20.15	24.53	24.52	24.52
55分後	20.21	20.18	24.57	24.58	24.57
60分後	20.21	20.18	24.57	24.57	24.57

＜移動貯蔵タンク定期点検実施経過表（ガス加圧法）＞



注：計測時間が10分前、確認時の欄には、予備試験データを記録すること

様式第34号

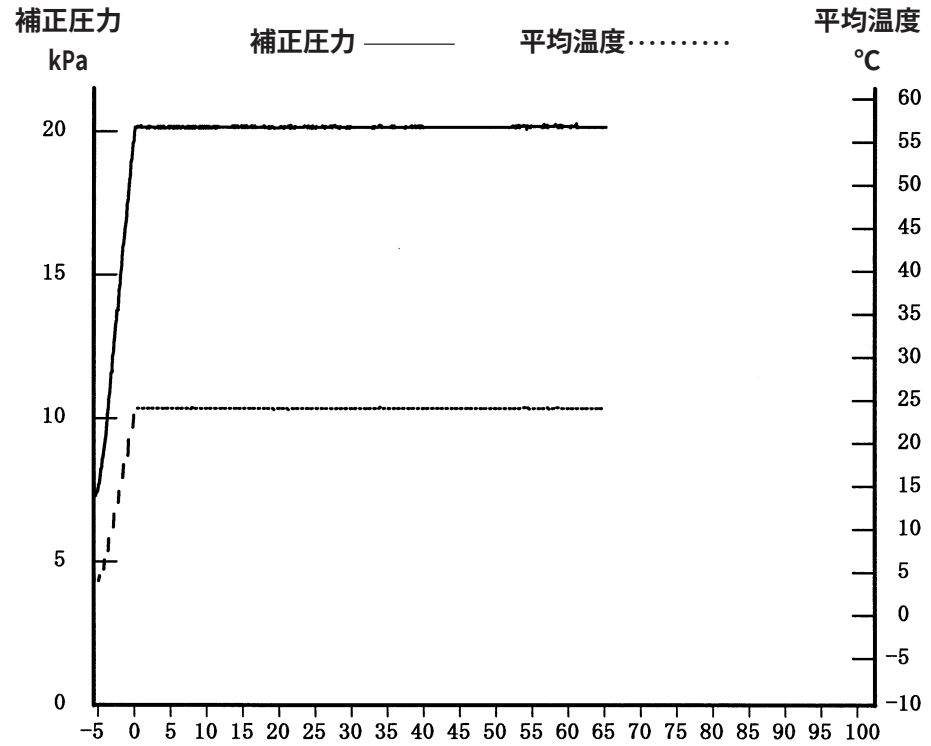
移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表　No.00-00

＜移動貯蔵タンク定期点検実施データ表（ガス加圧法）＞

第　3　槽　容量：　2000L　　液種：　灯油

計測時間	計測圧力 kPa	補正圧力 kPa	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
10分前	－0.01	－0.01	4.36	4.36	4.36
確認時	－0.05	－0.02	4.31	4.31	4.31
0分	20.13	20.13	24.53	24.48	24.50
5分後	20.14	20.13	24.51	24.51	24.51
10分後	20.14	20.13	24.52	24.50	24.51
15分後	20.18	20.15	24.55	24.55	24.55
20分後	20.14	20.14	24.50	24.51	24.50
25分後	20.19	20.17	24.55	24.54	24.54
30分後	20.16	20.15	24.52	24.52	24.52
35分後	20.16	20.15	24.53	24.52	24.52
40分後	20.16	20.15	24.52	24.53	24.52
45分後	20.18	20.16	24.54	24.54	24.54
50分後	20.16	20.15	24.52	24.53	24.52
55分後	20.21	20.18	24.58	24.57	24.57
60分後	20.21	20.18	24.58	24.57	24.57

＜移動貯蔵タンク定期点検実施経過表（ガス加圧法）＞



注：計測時間が10分前、確認時の欄には、予備試験データを記録すること

様式第34号

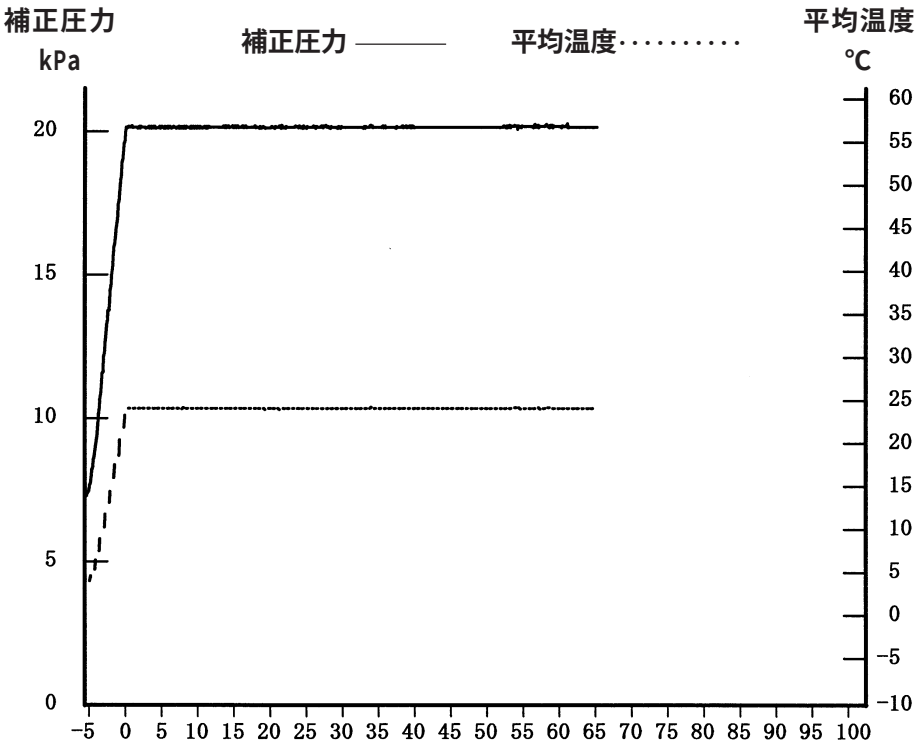
移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表　No.00-00

＜移動貯蔵タンク定期点検実施データ表（ガス加圧法）＞

第　4　槽　容量：　2000L　　液種：　軽油

計測時間	計測圧力 kPa	補正圧力 kPa	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
10分前	－0.02	－0.02	4.36	4.36	4.36
確認時	－0.06	－0.02	4.32	4.32	4.32
0分	20.14	20.13	24.54	24.48	24.51
5分後	20.13	20.13	24.50	24.49	24.49
10分後	20.14	20.13	24.51	24.51	24.51
15分後	20.18	20.15	24.55	24.56	24.55
20分後	20.13	20.13	24.51	24.50	24.50
25分後	20.18	20.16	24.55	24.54	24.54
30分後	20.16	20.15	24.52	24.53	24.52
35分後	20.15	20.13	24.53	24.55	24.54
40分後	20.16	20.14	24.52	24.54	24.53
45分後	20.18	20.16	24.55	24.54	24.54
50分後	20.17	20.15	24.53	24.53	24.53
55分後	20.20	20.17	24.57	24.57	24.57
60分後	20.20	20.17	24.58	24.57	24.57

＜移動貯蔵タンク定期点検実施経過表（ガス加圧法）＞



注：計測時間が10分前、確認時の欄には、予備試験データを記録すること

様式第34号

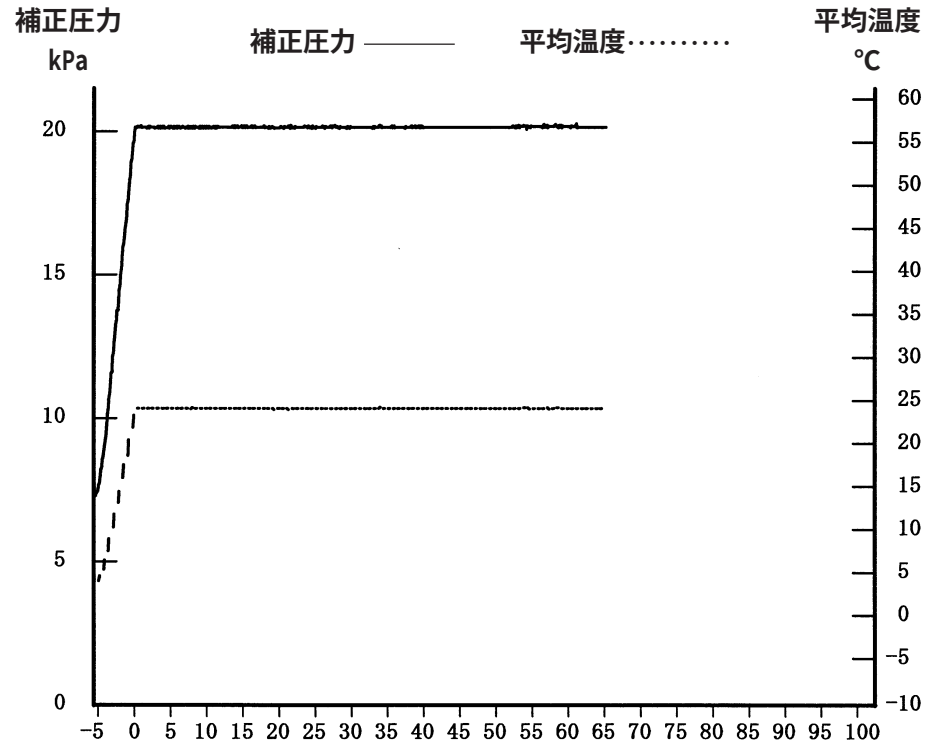
移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表　No.00-00

＜移動貯蔵タンク定期点検実施データ表（ガス加圧法）＞

第　5　槽　容量：　2000L　　液種：　軽油

計測時間	計測圧力 kPa	補正圧力 kPa	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
10分前	－0.01	－0.01	4.36	4.36	4.36
確認時	－0.05	－0.02	4.31	4.32	4.31
0分	20.13	20.12	24.54	24.49	24.51
5分後	20.14	20.13	24.51	24.51	24.51
10分後	20.14	20.13	24.51	24.51	24.51
15分後	20.19	20.16	24.56	24.55	24.55
20分後	20.14	20.14	24.50	24.51	24.50
25分後	20.16	20.14	24.55	24.54	24.54
30分後	20.15	20.14	24.53	24.52	24.52
35分後	20.15	20.14	24.52	24.53	24.52
40分後	20.16	20.15	24.53	24.52	24.52
45分後	20.17	20.15	24.53	24.55	24.54
50分後	20.16	20.14	24.53	24.53	24.53
55分後	20.20	20.17	24.58	24.57	24.57
60分後	20.21	20.17	24.58	24.58	24.58

＜移動貯蔵タンク定期点検実施経過表（ガス加圧法）＞



注：計測時間が10分前、確認時の欄には、予備試験データを記録すること

様式第34号

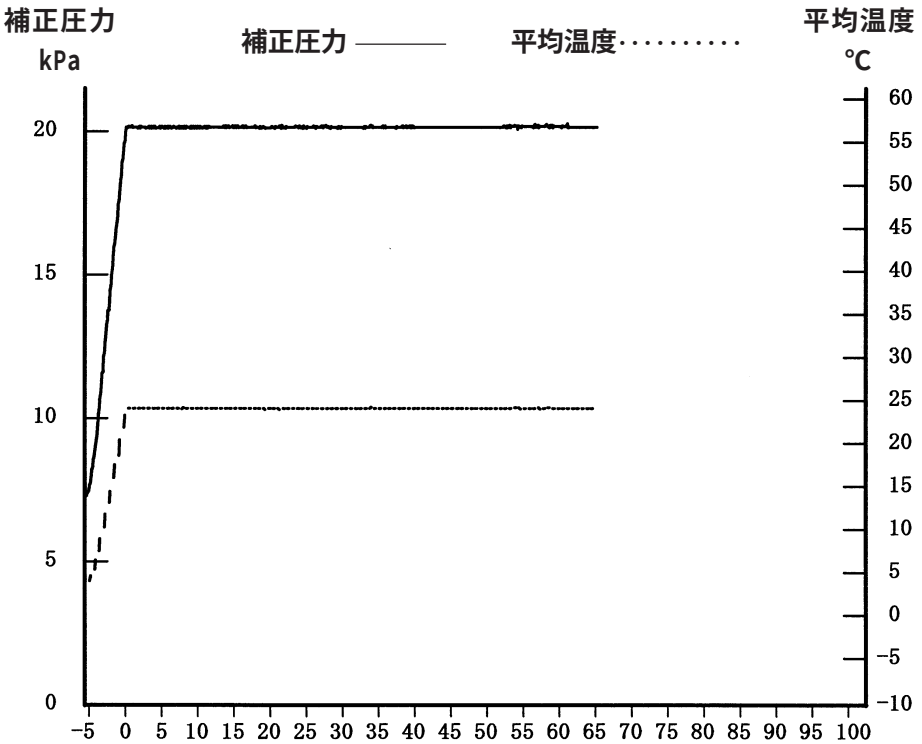
移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表　No.00-00

＜移動貯蔵タンク定期点検実施データ表（ガス加圧法）＞

第　6　槽　容量：　2000L　　液種：軽油

計測時間	計測圧力 kPa	補正圧力 kPa	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
10分前	－0.01	－0.01	4.36	4.36	4.36
確認時	－0.05	－0.02	4.32	4.31	4.31
0分	20.14	20.16	24.38	24.49	24.43
5分後	20.13	20.13	24.50	24.50	24.50
10分後	20.14	20.13	24.51	24.51	24.51
15分後	20.18	20.15	24.55	24.56	24.55
20分後	20.14	20.14	24.50	24.50	24.50
25分後	20.17	20.15	24.54	24.55	24.54
30分後	20.16	20.15	24.52	24.52	24.52
35分後	20.16	20.14	24.52	24.55	24.53
40分後	20.16	20.15	24.52	24.53	24.52
45分後	20.18	20.16	24.54	24.54	24.54
50分後	20.16	20.14	24.54	24.52	24.53
55分後	20.20	20.17	24.57	24.57	24.57
60分後	20.20	20.17	24.58	24.57	24.57

＜移動貯蔵タンク定期点検実施経過表（ガス加圧法）＞



注：計測時間が10分前、確認時の欄には、予備試験データを記録すること

様式第34号

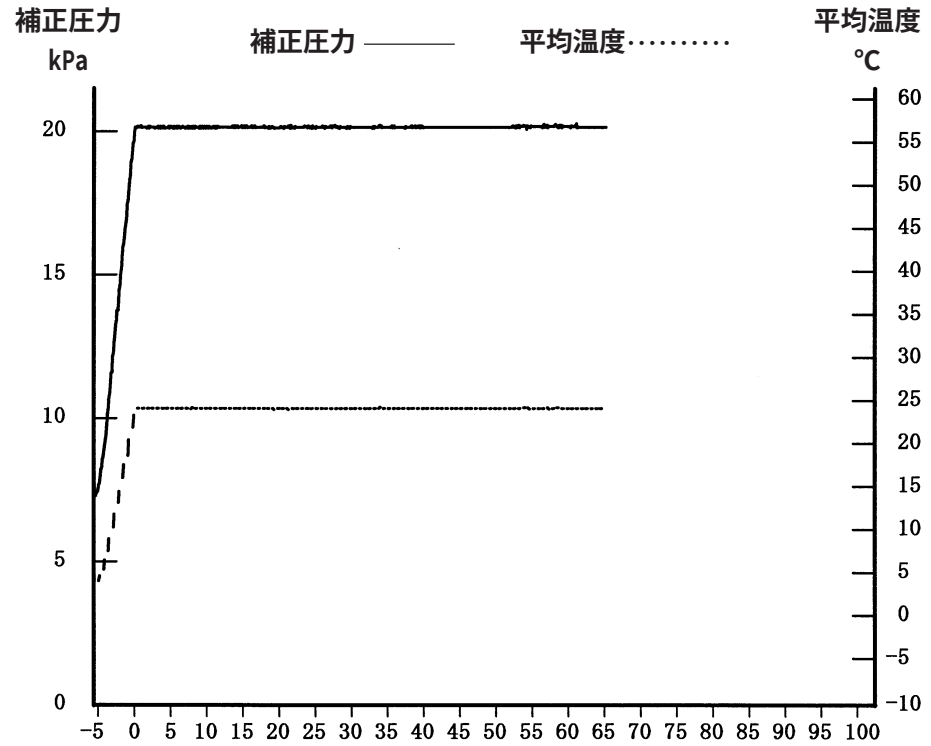
移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表　No.00-00

＜移動貯蔵タンク定期点検実施データ表（ガス加圧法）＞

第　7　槽　容量：　2000L　　液種：エチルアルコール

計測時間	計測圧力 kPa	補正圧力 kPa	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
10分前	0.00	0.00	4.36	4.37	4.36
確認時	－0.04	0.02	4.32	4.32	4.32
0分	20.15	20.17	24.37	24.49	24.43
5分後	20.14	20.14	24.50	24.51	24.50
10分後	20.16	20.15	24.51	24.51	24.51
15分後	20.20	20.17	24.56	24.55	24.55
20分後	20.15	20.15	24.50	24.51	24.50
25分後	20.18	20.16	24.54	24.55	24.54
30分後	20.17	20.16	24.53	24.52	24.52
35分後	20.16	20.14	24.53	24.54	24.53
40分後	20.18	20.16	24.53	24.53	24.53
45分後	20.18	20.16	24.54	24.54	24.54
50分後	20.17	20.16	24.52	24.53	24.52
55分後	20.21	20.18	24.58	24.57	24.57
60分後	20.23	20.20	24.58	24.57	24.57

＜移動貯蔵タンク定期点検実施経過表（ガス加圧法）＞



注：計測時間が10分前、確認時の欄には、予備試験データを記録すること

様式第34号

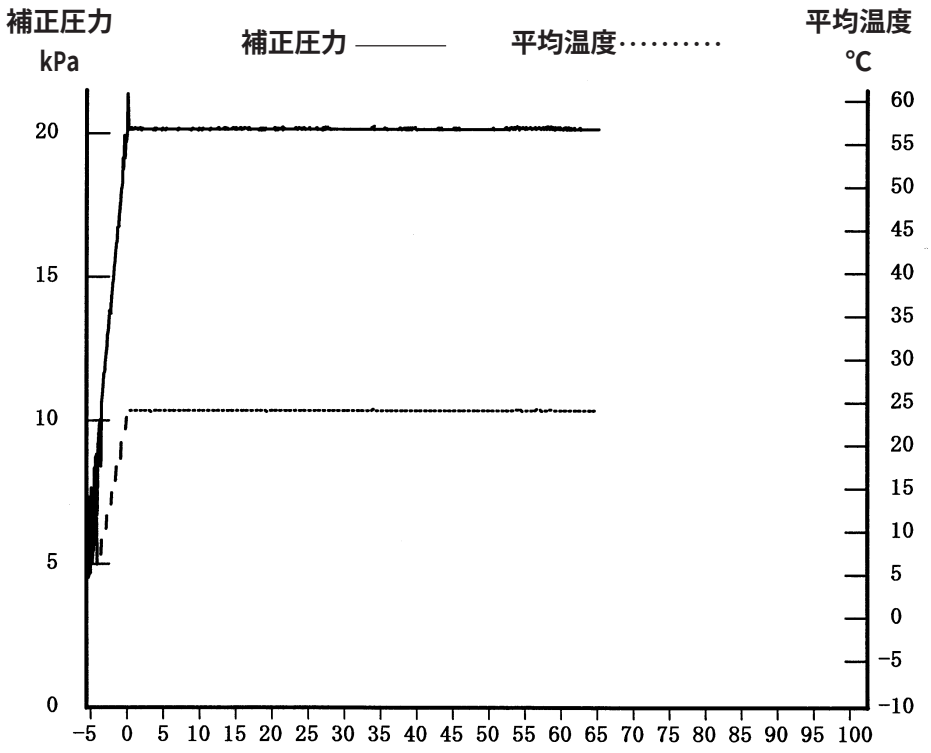
移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表　No.00-00

＜移動貯蔵タンク定期点検実施データ表（ガス加圧法）＞

第　8　槽　容量：　2000L　　液種：軽油

計測時間	計測圧力 kPa	補正圧力 kPa	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
10分前	0.00	0.00	4.37	4.36	4.36
確認時	－0.04	0.02	4.31	4.32	4.31
0分	20.18	21.34	24.38	18.99	21.68
5分後	20.14	20.14	24.52	24.49	24.50
10分後	20.15	20.14	24.50	24.52	24.51
15分後	20.19	20.16	24.55	24.56	24.55
20分後	20.14	20.14	24.50	24.50	24.50
25分後	20.19	20.17	24.54	24.55	24.54
30分後	20.17	20.16	24.52	24.52	24.52
35分後	20.16	20.14	24.52	24.56	24.54
40分後	20.17	20.16	24.52	24.53	24.52
45分後	20.20	20.18	24.54	24.55	24.54
50分後	20.16	20.14	24.54	24.53	24.53
55分後	20.21	20.18	24.57	24.58	24.57
60分後	20.22	20.18	24.58	24.58	24.58

＜移動貯蔵タンク定期点検実施経過表（ガス加圧法）＞



注：計測時間が10分前、確認時の欄には、予備試験データを記録すること

様式第33号（第27条関係）

移動貯蔵タンク定期点検実施結果一覧表

No.00-00

＜移動貯蔵タンク定期点検実施結果一覧表（ガス加圧法）＞

槽番号	20　分後		60　分後		圧力降下量 kPa	多槽同時加圧			基準槽との圧力差 kPa	漏えいの有　無
	計測圧力 kPa	平均温度 ℃	補正圧力 kPa	平均温度 ℃		1回目	2回目	3回目		
第1槽	20.14	24.51	20.18	24.58	−0.04	○			0.01	無
第2槽	20.14	24.50	20.18	24.57	−0.04	○			0.01	無
第3槽	20.14	24.50	20.18	24.57	−0.04	○			0.01	無
第4槽	20.13	24.50	20.17	24.57	−0.04	○			0.01	無
第5槽	20.14	24.50	20.17	24.58	−0.03	○			0.02	無
第6槽	20.14	24.50	20.17	24.57	−0.03	○			0.02	無
第7槽	20.15	24.50	20.20	24.57	−0.05	◎			0.00	無
第8槽	20.4	24.50	20.18	24.58	−0.04	○			0.01	無

注意事項

１：槽番号は、車両前方よりとする。

２：多槽同時加圧で２回以上に分けて試験を実施した場合は、同時に実施した槽について多槽同時加圧欄に○印をつけ、基準槽については◎印とすること。

３：補正圧力とは、計測圧力に必要な温度補正を加えるものをいう。

４：圧力降下量とは、２０分後の計測圧力と６０分後の補正圧力との差をいう。

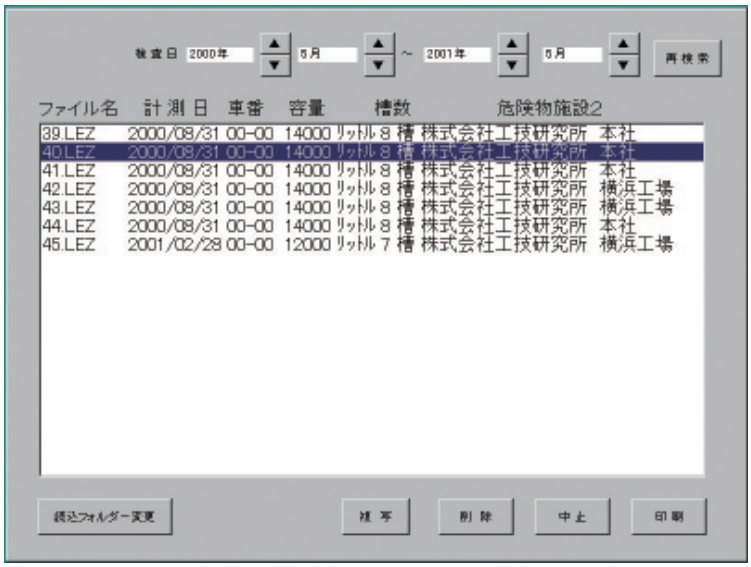
５：基準槽との圧力差とは、圧力降下量が最も少ない槽を基準槽としたときの各槽との圧力差をいう。

●計測データー覧を表示する

ローリーエギザミーナー 2 に保存されている計測データー覧を表示します。
表示されたデータを複写したり印刷することができます。

1 計測データー覧を表示する

メインメニュー画面で [データの印刷] ボタンを押します。
「計測データー覧」画面が表示されます。



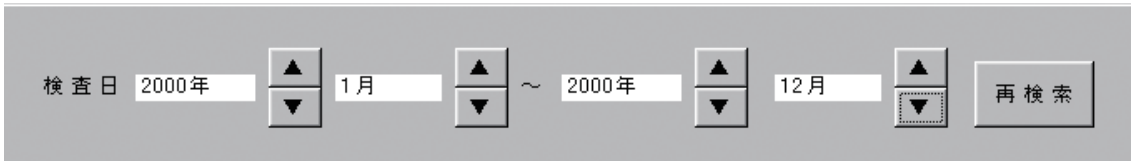
●検査月を指定して表示する

検査年月を指定して、該当する計測データを表示します。

1 表示する検査日を指定する

① 検査月の [▲] または [▼] ボタンを押して、表示したい年月を設定します。

② [再検索] ボタンを押します。
該当する計測データが表示されます。



● ファイルを複写する

「計測データー覧」を USB メモリに複写できます。

1 USB メモリを接続する

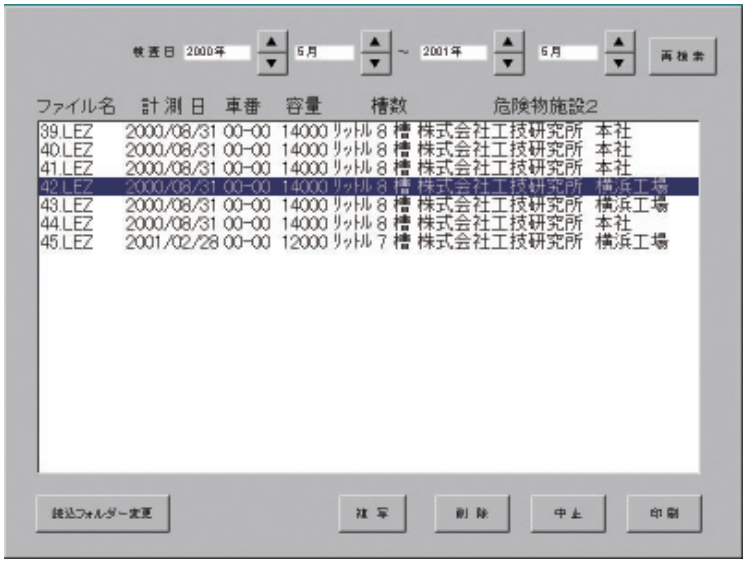
ローリーエギザミナー 2 の右側のドアを開き、USB メモリを接続する。

2 複写するデータを選択する

複写するデータを選択します。
選択したファイルが複写元ファイルになります。

3 複写ボタンを選択する

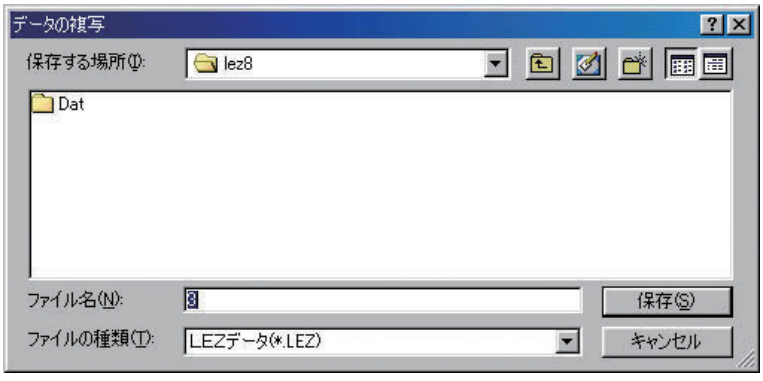
複写 ボタンを押します。
「データの複写」画面が表示されます。



5 複写先装置を選択する

① 保存する場所の「▼」を押して、表示された、プルダウンメニューから保存先を選択します。
（USBメモリは「リムーバブルディスク」と表示されます。）

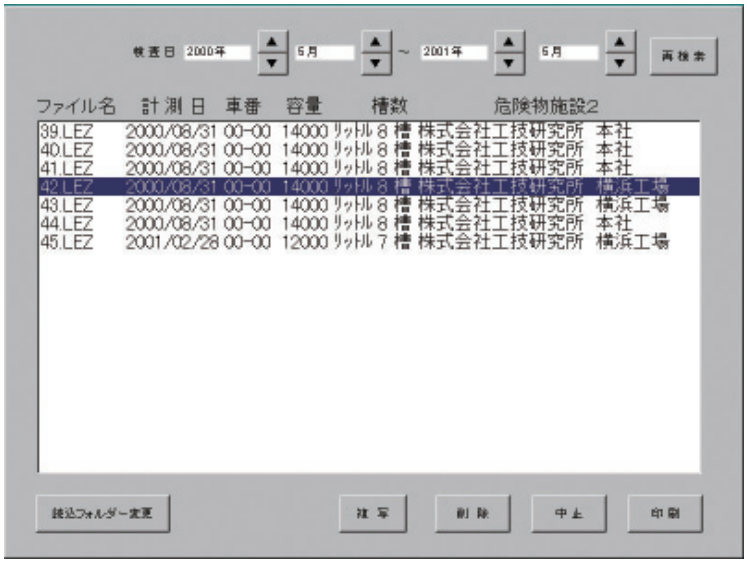
② 保存 ボタンを押します。
※ファイル名を変更した場合、データ読み込み不良を引き起すため、名前の変更はしないでください。



● ファイルを削除する

不要になったファイルを削除します。

> 一度削除したファイルは、復活することはできませんのでご注意ください。



1 削除するデータを選択する

削除するデータを選択します。

2 削除ボタンを選択する

削除 ボタンを押します。

選択したデータが削除されます。

各種設定

点検実施者名・顧客名・作業者名・検査行政機関名・液種名の入力をおこないます。
ローリーエキザミナー２に付属のキーボードを接続してください。

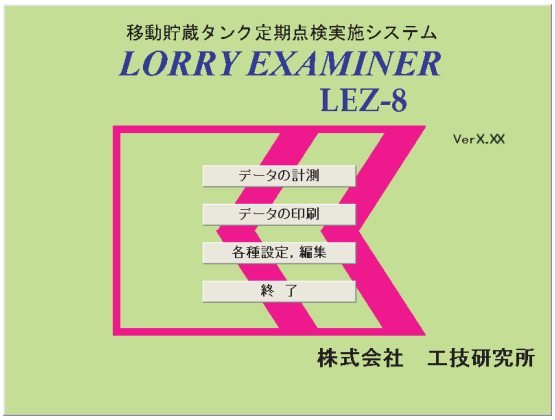
■各種設定・編集画面を表示する

1　電源スイッチをオンにする

① ローリーエキザミナー２本体前面の「電源スイッチ」をオン側に回します。
電源表示 LED が点灯し、「ロゴ」画面を表示してから「メインメニュー画面」が表示されます。

ロゴ画面

2　メインメニューの表示

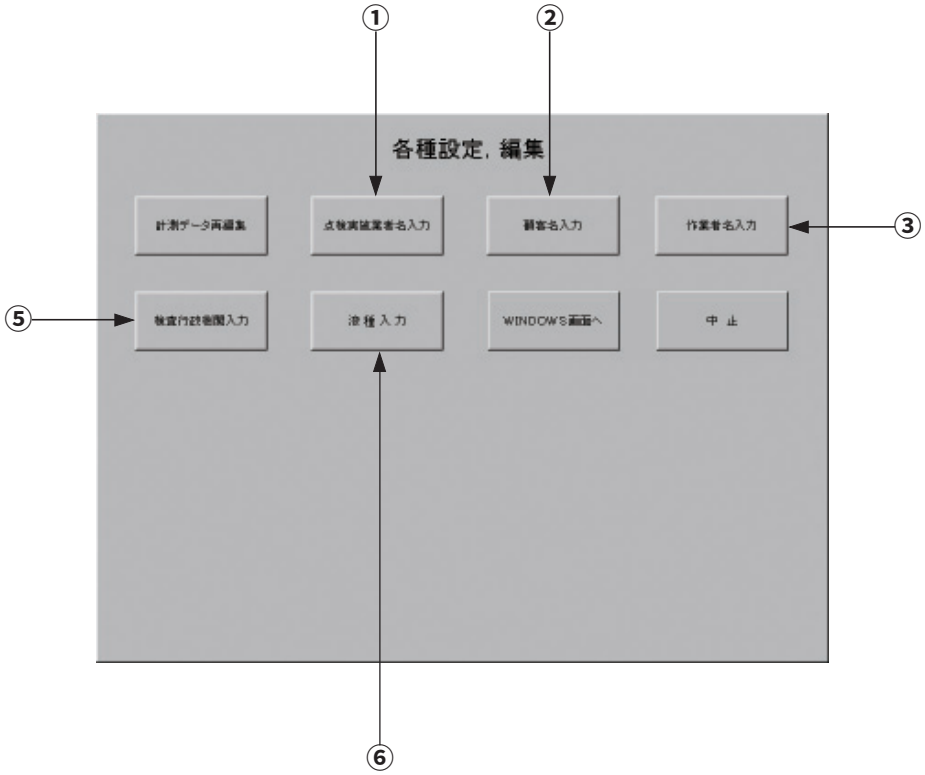


メインメニュー画面

3　システム設定画面の表示

「メインメニュー」画面で、[各種設定、編集] を押すとすると「各種設定、編集」画面が表示されます。

各種設定・編集画面



このシステム設定画面から、下記を参照して必要な作業を行なってください。

① **点検実施者名入力（77 ページ）**
② **顧客名入力（78 ページ）**
③ **作業者名入力（79 ページ）**
④ **検査行政機関入力（80 ページ）**
⑤ **液種入力（81 ページ）**

■ 点検実施業者名設定

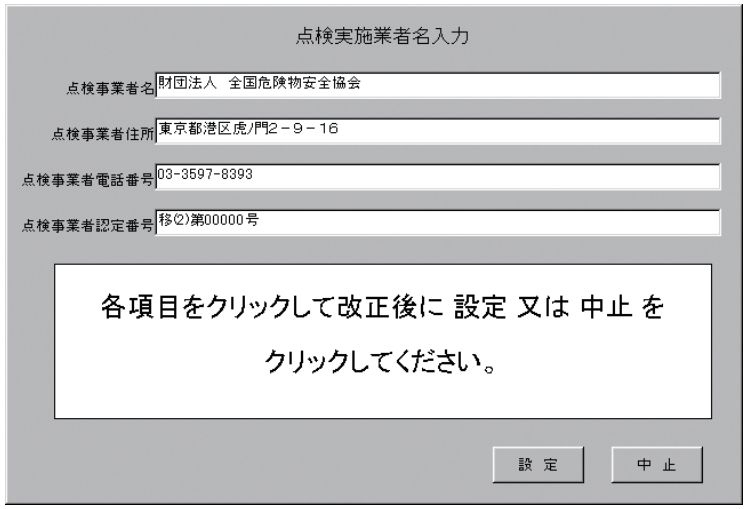
点検をおこなう業者名を設定します。

1 点検実施業者名入力画面を表示する

点検実施業者名入力 ボタンを押します。
「点検実施業者名入力」画面が表示されます。

2 各項目を入力する

各項目に必要事項を入力して 設定 ボタンを押します。
※ 中止 ボタンを押すと、設定を中止します。



■ 顧客名の設定

お客様の名前や住所を設定します。

1 顧客名一覧画面を表示する

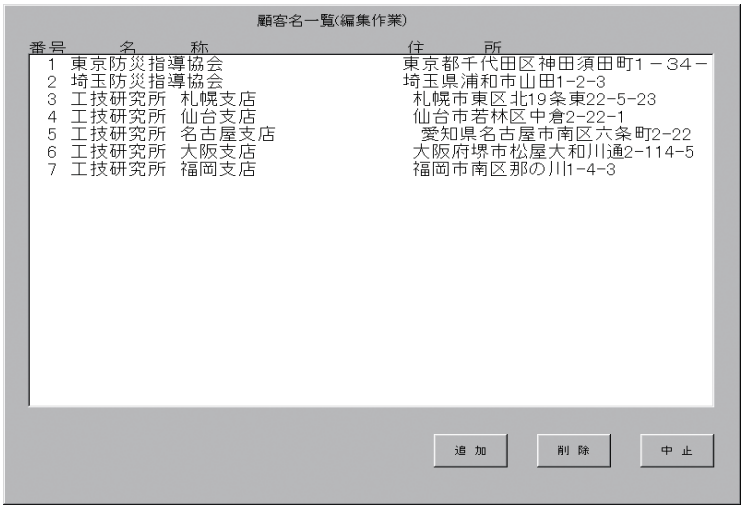
顧客名入力 ボタンを押します。
「顧客名一覧」画面が表示されます。

2 顧客名一覧（編集）画面を表示する

追加 ボタンを押します。
「顧客名一覧（編集）」画面が表示されます。
※ 中止 ボタンを押すと、設定を中止します。
表示されている、顧客を削除するときは、削除する顧客を選択して、 削除 ボタンを押します。

3 各項目を入力する

各項目に必要事項を入力して 設定 ボタンを押します。
※ 中止 ボタンを押すと、設定を中止します。



■ 作業者名の設定

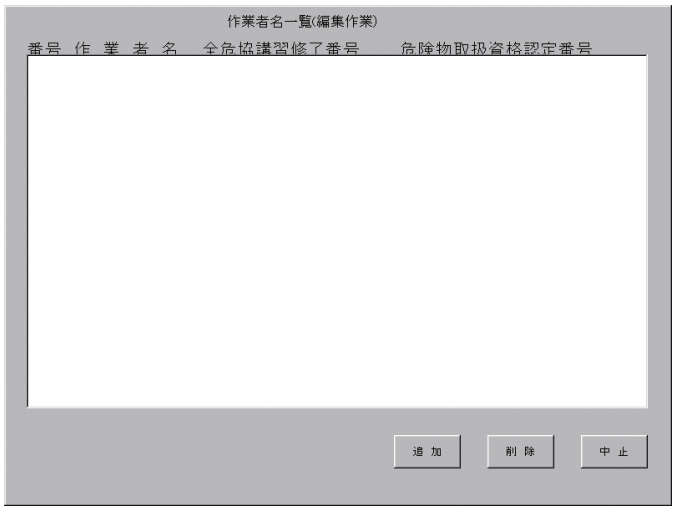
点検作業者の名前や危険物取扱資格番号などを設定します。

1 作業者名一覧（編集作業）画面を表示する

作業者名入力 ボタンを押します。
「作業者名一覧（編集作業）」画面が表示されます。

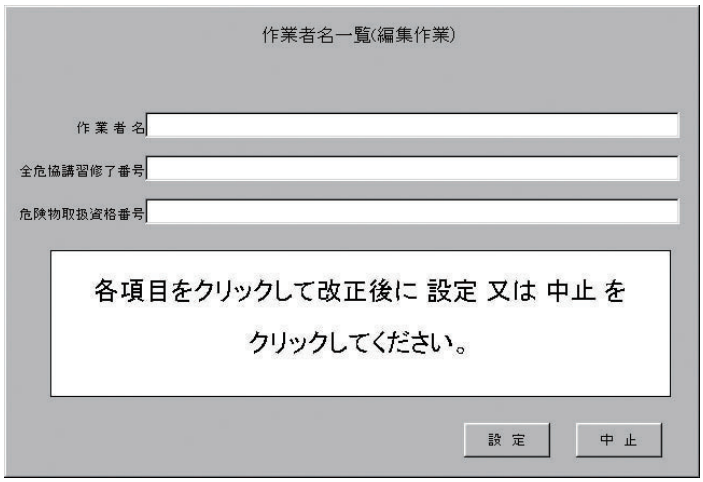
2 入力画面を表示する

追加 ボタンを押します。
「入力」画面が表示されます。
※ 中止 ボタンを押すと、設定を中止します。
表示されている、作業者を削除するときは、削除する作業者を選択して、 削除 ボタンを押します。



3 各項目を入力する

各項目に必要事項を入力して 設定 ボタンを押します。
※ 中止 ボタンを押すと、設定を中止します。



■ 検査行政機関名の設定

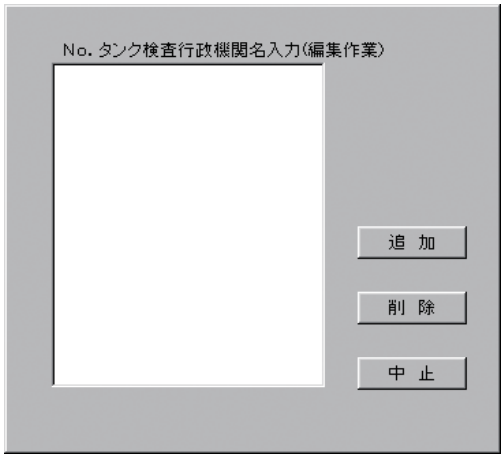
タンク検査行政機関名を設定します。

1 タンク検査行政機関（作業編集）画面を表示する

検査行政機関名入力 ボタンを押します。
「タンク行政機関名入力（編集作業）」画面が表示されます。

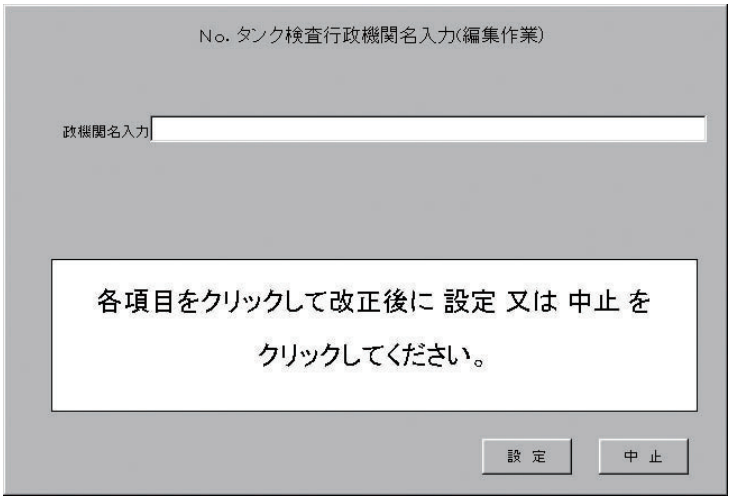
2 入力画面を表示する

追加 ボタンを押します。
入力画面が表示されます。
※ 中止 ボタンを押すと、設定を中止します。
表示されている、行政機関を削除するときは、削除する行政機関を選択して、 削除 ボタンを押します。



3 各項目を入力する

各項目に必要事項を入力して 設定 ボタンを押します。
※ 中止 ボタンを押すと、設定を中止します。



■ 液種名の設定

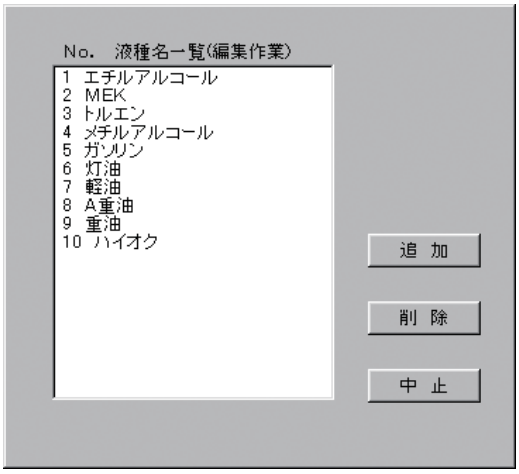
検査対象の液種を設定します。

1 液種名一覧（編集作業）画面を表示する

液種入力 ボタンを押します。
「液種名一覧（編集作業）」画面が表示されます。

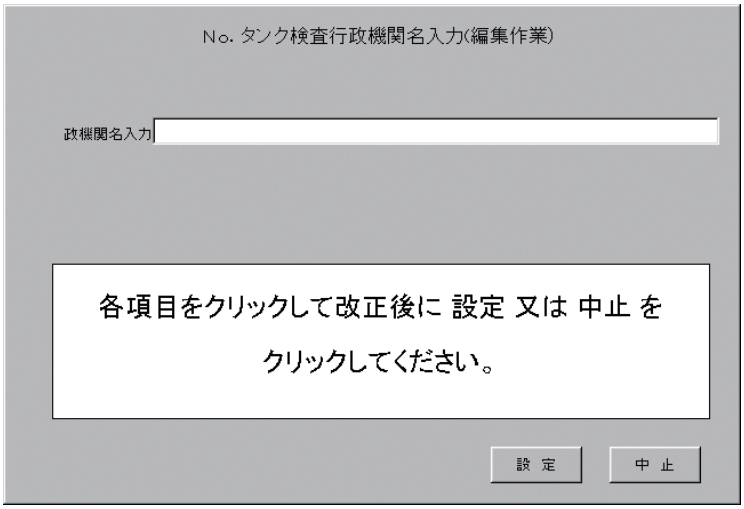
2 入力画面を表示する

追加 ボタンを押します。
「入力」画面が表示されます。
※ 中止 ボタンを押すと、設定を中止します。
表示されている、液種を削除するときは、削除する液種を選択して、 削除 ボタンを押します。



3 各項目を入力する

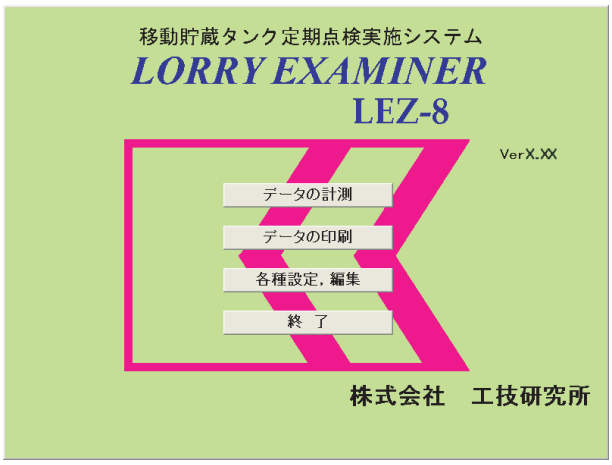
各項目に必要事項を入力して 設定 ボタンを押します。
※ 中止 ボタンを押すと、設定を中止します。



■ 設定が終わったら

1 中止 ボタンを押す

「メインメニュー」画面が表示されます。

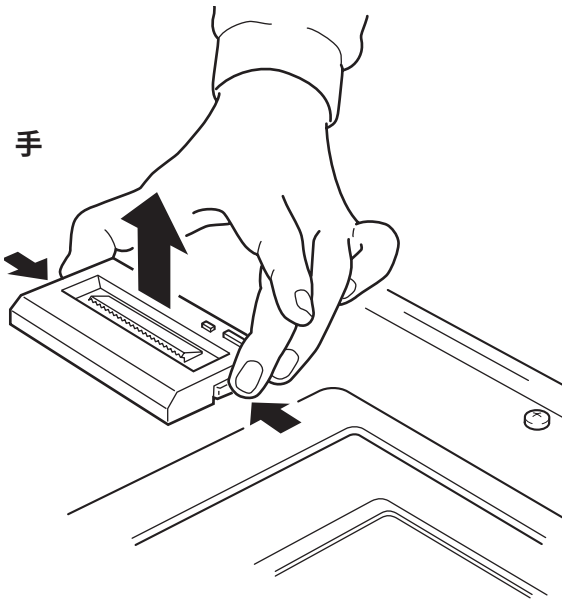


内蔵ミニプリンタの用紙交換

内蔵ミニプリンタの用紙が残り少なくなったら、次の手順で交換してください。

1 フロントカバーを外す

フロントカバーのフック（２箇所）を指で押しながら、手前に引いて外します。

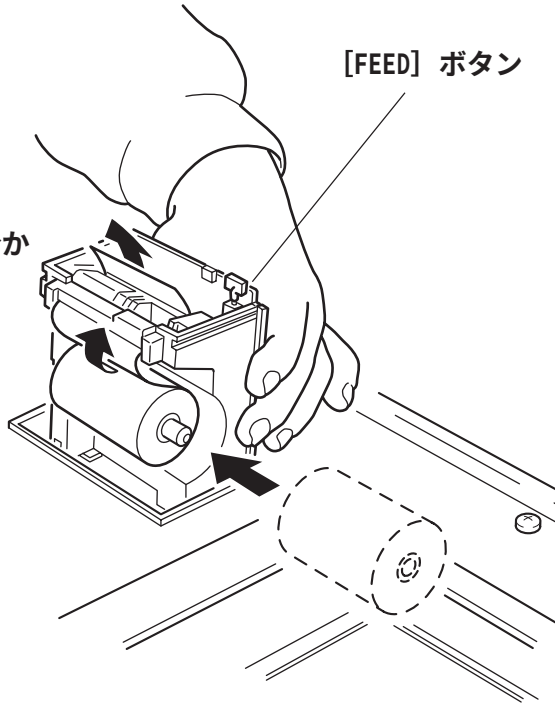


2 プリンタを引き出す

ミニプリンタ本体を手前に引き出します。

3 用紙を交換する

・古い用紙を取り出します。
・新しい用紙を図のように紙セット軸にセットします。
・用紙を挿入口に軽く押し込み、プリントヘッドの部分からでてくるまで［FEED］ボタンを押し続けます。



4 プリンタを元にもどす

・ミニプリンタ本体をローリーエギザミナー２にもどし、フロントカバーを取り付けます。
・フロントカバーからでている用紙をペーパーカッタで切り取ります。

お手入れについて

■ ローリーエギザミナー 2 / 下部温度センサ / キーボード

・やわらかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤をひたした布を固くしぼってふき取り、やわらかい布でから拭きしてください。
・機器を保管する場合は極端な高温下や低温下または高湿度の場所は避けてください。

■ 圧力コントローラ

やわらかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤をひたした布を固くしぼってふき取り、やわらかい布でから拭きしてください。

■ センサアッセンブリ / 下部温度センサ

・やわらかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤をひたした布を固くしぼってふき取り、やわらかい布でから拭きしてください。
・溶剤、腐食性のある液体の試験を行った後はきれいにふきとってください。

■ ホルダアッセンブリ / ホルダアダプタ

・やわらかい布でから拭きし、薄く機械油などを塗布してください。

■ 外部プリンタ

やわらかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤をひたした布を固くしぼってふき取り、やわらかい布でから拭きしてください。
詳細については、プリンタの取扱説明書をご参照ください。

■ 安全弁

・やわらかい布でから拭きし、薄く機械油などを塗布してください。
・使用されない際はキャップを取付けてください。

アフターサービスについて

保守・点検方法・トラブル対処法に基づいて点検した上で、正常に動作しないときは最寄りの「ご相談窓口」に点検・修理を依頼してください。

■ 保証書について

保証書に、品名、型式、製造番号、出荷年月が記載されていることをご確認の上、内容をお読み頂き大切に保管してください。

■ 修理を依頼されるときは

・保証期間中は、保証書の記載内容に基づき無料修理いたします。
・保証期間が過ぎているときは、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

■ 補修部品の最低保有期間

当社の製品の性能を維持するために必要な補修部品を製造中止後、7年間保有しています。したがって、最低保有期間終了後は、修理をお引き受けできない場合があります。

■ アフターサービスについてご不明の場合

修理や製品についてのご相談は、最寄りの「ご相談窓口」にご連絡ください。

株式会社 工技研究所

この取扱説明書のNo.はGM0032-07(201508)です。